

## 大項目 6 研究活動と研究環境

### 【目標】

教員が質の高い教育研究活動を遂行できるよう、個人研究費および研究旅費の規則を整備し、適正な活用を推進する。教員の個人研究室についてはこれまでどおり、100%の個室化を推進すると同時に、スペースや設備、備品を公平に整備する。

また、研究活動の活性化をはかるため、産官学共同研究による外部資金導入や文部科学省による助成金の獲得にむけて、積極的に取り組む。さらに、教員の研究活動に必要な研修機会を確保するとともに、授業や管理運営の負担が過重にならないように配慮し、在外・国内研究員および海外研修制度の活用を推進する。

### 1) 学部における研究活動

#### 【研究活動】

---

#### A群 論文等研究成果の発表状況

##### ●現状把握

##### (1) 著書、論文、個展・展覧会、学会発表等

本学専任教員の多岐に渡る研究活動は、毎年教務課へ提出される「教育研究活動業績書」によってその概要を知ることができる。この業績書には、著書、論文、その他（書評・記事・エッセイ、翻訳、辞書、報告書）に分類した研究活動が「業績書 A」に、また個展・展覧会、学会発表、公開口頭発表（講演・セミナー・シンポジウム等）、公開発表（公演・上演・テレビ、ラジオ等への出演）に分類した研究活動が「業績書 B」に記載されている。

2002年度から2006年度まで5年間の著書、論文及び個展・展覧会等研究成果の発表状況は「専任教員の教育・研究業績（大学基礎データ表 24・25）」のとおりである。

また専任教員の教育研究活動を分かりやすく社会に公開することを目的に、一人一人の研究業績を中心（教育業績を記載するかどうかは本人の自由）とした「教員プロフィール集」が2005年4月に刊行された。今後は3年毎に刊行し、その間の年度は補遺版として対応することになっている。

##### (2) 研究紀要

研究紀要は、研究活動の一部を外部に発信する手段としてその役割を担っており、毎年1回3月に刊行している。2006年度には第37号を刊行した。2001年度（第32号）からは、従来からある「研究論文」だけでなく、教員の制作活動を示す「制作ノート」を加えた2部構成となり、事務所管も美術資料図書館から教務課へ移管となった。

投稿の流れとしては、①投稿予定者は、まず論文の概要（制作ノートの場合は制作領域）等を記載した登録票を6月中旬～7月初旬頃教務課へ提出する。これにより、編集委員会は投稿予定者数、投稿内容等を把握でき編集作業をスムーズに行うことができる。②実際原稿は、8月中旬～9月初旬頃に設定した期間内に完全原稿として提出され、編集作業を進めていくこととなる。

「研究論文」は学内公募され、その投稿対象者は専任教員（教授、准教授、専任講師）、助手、名誉教授、客員教授及び非常勤講師となっている。一方、「制作ノート」については編集委員会の特別企画として、編集委員会から専任教員及び客員教授に原稿を依頼してきた。2005年度（第36号）からは、こちらも学内公募となり、新たに助手が対象者に加わった。「制作ノート」が「研究論文」と同様学内公募となった経緯は、学長から研究紀要の今後の在り方について、「①制作ノート②大学院生（博士後期課程を含む）の投稿について」を含め現状の問題点や課題を検討し審議するよう、2004年度編集委員会が諮問を受けたことによる。編集委員会で審議を重ねた結果、次のとおり答申を行った。

①「制作ノートは数年間、編集委員会の特別企画として、編集委員会からの依頼原稿として載せられてきたが、今後もこれを継続することが良い。また、今後は研究論文・制作ノート双方とも学内公募にするとの結論に達した。」

②「大学院生の投稿に関して討議を重ねた結果、本学の研究紀要は、教員の研究又は制作活動の発表の場とすることが望ましい、研究紀要には大学院生の論文は含めない方が良い、という結論に至った。ただし、大学院生等の制作、研究活動を主とした別の趣旨による刊行物の発刊は必要であるとの意見が並行して出された。」

さらに2006年度（第37号）「制作ノート」の公募に当たり、投稿対象者に非常勤講師まで含めるかどうか、2005年度編集委員会で議論を重ね、「研究室が特に推薦した場合、編集委員会が特に認める者として非常勤講師の制作ノートへの投稿ができる」とした。なお、大学院博士後期課程学生の研究成果を掲載発表するメディアとして、「大学院博士後期課程研究紀要」の発刊が博士課程運営委員会で承認され、2007年度には第1号が刊行予定である。

また、編集委員会は「武蔵野美術大学研究紀要編集委員会規則」（2005年4月1日施行）を取り纏め、大学における委員会の立場を明確にした。委員会規則第4条には、委員会での検討事項として①論文等の募集及び掲載の可否に関する事項、②研究紀要の編集及び刊行に関する事項、③その他必要な事項を検討し決定すると規定している。

2002年度から2006年度まで5年間の研究論文名・執筆者、制作ノート作者及び編集委員は、本項目末の資料1のとおりである。

### (3) 研究集会

共同研究助成グループや在外研究員として派遣された教員の研究成果を発表する場として、主に位置づけられている。

研究集会は前・後期各1回開催されており、前期は6月下旬～7月上旬頃、後期は11月下旬～12月上旬頃となっている。参加対象者は原則として専任教員、助手、非常勤講師、教務補助員及び職員となっているが、テーマによっては、学生の参加も認め

ている。

2002年度から2006年度まで5年間の発表内容及び発表者等は、本項目末の資料2のとおりである。

### ●点検・評価

#### (1)著書、論文、個展・展覧会、学会発表等

本学のような美術大学教員の研究活動は、個展・展覧会等での作品発表、講演・セミナー等の開催、著書・論文等の執筆を中心に多岐に渡って展開されていることが分かる。

問題点としては、「教育研究活動業績書」を期日までに提出していない教員が少なからずいることである。この業績書は大学だけでなく教員にとっても自己の研究活動を点検評価し、いかに教育活動へ還元されているかを知る機会ともなる。専任教員全員が期日までに業績書を提出すべきであると考ええる。

一方「教員プロフィール集」は高等教育機関、美術科のある高校・美術予備校、美術館・博物館、求人企業及び官公庁などにも配付して情報公開を進めている。本学ホームページ上でも、教務部と企画部の連携により2007年7月から公開している。

#### (2)研究紀要

「制作ノート」の投稿対象者に専任教員、客員教授、助手だけでなく非常勤講師まで含めるに当たり研究室からの推薦を必要としたが、これは715名(2007年5月1日現在)が在籍していること及び公募初年度であること等から考えると、投稿者数を予想することができず最良の方法だったと言える。このことにより、作品の点数・内容が充実し、かつ、専門領域が広範囲に渡ったことは多様性の面からも評価できる。また「研究紀要編集要項」及び「研究紀要執筆要領」の整備も編集作業と並行して編集委員会で進められており、執筆者・作者にとって分かりやすい表現・指示内容となってきた。

#### (3)研究集会

研究集会は、1982年7月に第1回目が開催されてから現在に至るまで25年間続けられてきた。その実績や成果を考えると、今後も継続して開催することは有意義であると考えられる。しかし、最初に教授会の場で発表者を募集するが、応募締め切り日となっても発表者が決まっていないことが多い。

また、教授会での開催案内、学内回覧及びポスター等で周知・参加を積極的に呼びかけているが、参加者数は平均すると35～50名前後であり発表関係者を除くとかなり少ない。研究集会の参加者をいかに増やし活性化していくかが最重要課題であるといえる。

### ●改善・改革方策

#### (1)著書、論文、個展・展覧会、学会発表等

上記のとおり、研究成果の発表は教員の専門によって、多岐に渡る形式で行われて

おり、質・量ともに充実しているが、「教育研究活動業績書」の提出については教務を中心に徹底をはかる。

(2)研究紀要

当面は現在の募集方法を維持することによって、専任教員、客員教授、助手に兼任講師も含めた研究発表を促進する。

(3)研究集会

共同研究助成グループや在外研究員からの報告だけでなく、個人又はグループによる自主的研究活動や成果の発表、新任教員の研究紹介の場としても積極的に活用することにより、発表者の対象を広げ活性化していく。また専任教員について、研究集会への参加を義務づけて行くことを検討する。

**【教育研究組織単位間の研究上の連携】**

---

A群 附置研究所とこれを設置する大学・大学院との関係

●現状把握

現在までのところ、本学には附置研究所を設置していない。

2) 学部における研究環境

**【経常的な研究条件の整備】**

---

A群 個人研究費、研究旅費の額の適切性

B群 共同研究費の制度化の状況とその運用の適切性

●現状把握

(1)個人研究費

個人研究費については、専任教員及び助手の研究活動を支援することを目的に、専門分野における各年度の研究課題に資する経費に当てるため、一人当たり年間一律300,000円が支給されている。手続きとしては、研究者から研究課題、研究計画及び経費内容について記載した交付願の提出を教務課で受け付け、経理課にて給与口座へ全額一括支給している。個人研究費の使途対象については、専門分野における研究に直接使用されるものに限るが、特に制限は設けていない。経理上の取扱いは個人所得

## 研究活動と研究環境

の扱いとなり、所得税の課税対象となる。

2006年度の支給総額は、「専任教員に配分される研究費（大学基礎データ表 29）」によると 56,100 千円となっている。交付願の提出が遅れている教員には教務課より連絡しているので、専任教員及び助手合計 187 名全員が個人研究費を受給していることになる。

なお、個人研究費の支出根拠を明確にする必要性から早急に規則化するよう公認会計士より指摘を受けていたが、2007年4月1日から「武蔵野美術大学個人研究費規則」として制定・施行する運びとなった。

### (2) 研究調査出張補助

「学校法人武蔵野美術大学研究調査出張補助基準」が 2007年4月1日から制定・施行された。この基準は、本学専任教員及び助手が研究調査のため学会又は展覧会等に出張する場合、本学旅費規則に定める基準により、年間 91,000 円を限度として交通費及び宿泊料を補助することを定めている。

経費補助を受けようとする者は、申請書を学長に提出して承認を得るものとし、出張終了後、すみやかに研究調査の内容を明示する資料（学会・展覧会等の名称、日時等が分かるもの）を添えて、報告書を学長に提出することになっている。

なお「専任教員の研究旅費（大学基礎データ表 30）」によると、2006年度支給件数は国外 12 件・国内 49 件合計 61 件、支給総額は 3,648,560 円となっている。

### (3) 在外・国内研究費、海外研修費

本学専任教員の学術研究及び教授能力の向上を目的として「武蔵野美術大学在外・国内研究員等規則」が定められている。この規則によると、在外・国内研究員等とは、A. 在外研究員、B. 国内研究員、C. 海外研修者に区分され、その用語の定義は次のとおりである。

- A. 在外研究員 その専攻する分野について研究させることを目的として、本学の経費により、海外に派遣される専任教員
- B. 国内研究員 その専攻する分野について研究させることを目的として、国内で研究に専従する専任教員
- C. 海外研修者 日本政府、外国政府、内外公私の団体その他の者からの給費又は自費をもって、その専攻する学問分野についての研究、学会出席、又は海外事情調査等のため大学の承認を得て海外で研修する専任教員

在外研究員は、派遣期間が 6 ヶ月以上 1 年以内の長期在外研究員と派遣期間が 3 ヶ月以上 6 ヶ月以内の短期在外研究員に分けられ、派遣人数は毎年長期 2 名、短期 2 名となっている。ただし、在外研究員の派遣計画によっては、長期 1 名を短期 2 名へ、短期 2 名を長期 1 名に変更することができる。応募資格は、本学専任教員として、長期在外研究員は在職満 5 年以上の者、短期在外研究員は在職満 2 年以上の者となっており、教授会の議に基づき、学長が任命する。在外研究員に命じられた者に対して、在外研究費として、目的地までの往復の交通費及び 1 日 8,400 円の滞在費を支給する。

国内研究員の派遣も、在外研究員と同様、長期と短期に分けられ毎年 1 名ずつとな

っている。国内研究員へは、月額 26,000 円の国内研究費を支給する。また規則化されていないが、1996 年 7 月開催教授会において、1997 年度から「150 万円を上限として、研究計画に応じ旅費・滞在費について研究助成を行う」ことが決定されている。

海外研修等をしようとする者は、海外研修計画書を提出し教授会の議を経て学長の承認を得る必要がある。研修期間は 1 年以内とし、必要経費が補助される。補助額は、専任教員については交通費及び滞在費合計の 35%、助手については同じく合計の 50% が支給されるが、経費補助を受けられるのは 3 年に 1 回となっている。

「専任教員の研究旅費（大学基礎データ表 30）」によると、2006 年度長期・短期在外研究員及び海外研修者への支給総額は、30,777,220 円となっている。

2002 年度から 2006 年度までの在外・国内研究員、海外研修者は、本項目末資料 3 及び 4 のとおりである。

#### (4) 共同研究助成費

本学の共同研究は、「武蔵野美術大学共同研究助成取扱基準」により「専任教員が特定の研究課題について本学の自主性の下にプロジェクト・チームを編成し、学内において共同して行う研究並びに国内外の大学等と共同して行う研究をいう。」と定義している。

申請から助成・研究成果公表までの流れは、次のとおりである。

①研究代表者である専任教員は、申請書に共同研究計画書を添えて、教授会で提示した申請期日までに学長に提出する。

②学長は、審査を行うため共同研究助成審査委員会を教授会に設置し、助成申請している研究の代表者及び研究分担者以外の教授会構成員の中から、審査領域を踏まえて、3 名の審査委員を任命する。

③審査委員会は、研究計画及び研究費目等の審査を行い、その結果を学長に報告する。学長は、その報告を受け、教授会の議を経て、共同研究助成の決定を行う。

④研究成果は、共同研究助成の対象となった年度から 3 年以内に、本学研究紀要や学術誌への掲載、図書の刊行、公開の場所における展示等の方法により公表しなければならない。

「学内共同研究費（大学基礎データ表 31）」によると、2006 年度新規及び継続研究費として、12 件総額 18,673,340 円が共同研究グループへ助成されている。

2002 年度から 2006 年度までの研究の概要は、本項目末の資料 5 のとおりである。

### ●点検・評価

#### (1) 個人研究費

本学の個人研究費は、個人所得の扱いとしているので、支給に当たって特に審査をしていない。研究者にとっての利点は、使途対象についての制限が設けられていないため支出の自由度が高いことと年度末に領収書の提出をする必要がないので事務処理の煩雑さがないことであろう。問題点としては、各教員が 1 年間に行った研究活動内容、研究費の使途、研究成果等について報告書を作成・提出する義務がないことである。本人が研究活動を遂行していく上で、個人研究費がどの程度寄与できたのか把握

## 研究活動と研究環境

するためにも報告書の提出が望まれる。

### (2) 研究調査出張補助

2006年度までは「学校法人武蔵野美術大学学会出張補助基準」により、学会への出席、本人の作品が出品される個展・展覧会等への参加（国外での開催にも適用可）に限って補助対象としてきた。そのため、2006年度に学会出張補助を受けた専任教員及び助手は、合計187名のうち61名（全体の約33%）にすぎず、一人当たり支給額は19,510円となっていた。

2007年度からは「学会出張補助基準」を廃止し、新たに「研究調査出張補助基準」を制定した。学会以外の研究会等へ参加する場合及び自分の作品は出品しないが展覧会を見学する場合等、研究調査を主とする出張も補助対象としたことにより、学会に加入していない教員の研究会等への参加や助手による美術館、博物館、展覧会の見学等に係る経費に対しても補助対象になった。従来の出張補助は申請できる者が限られており、メンバーも固定化していたが、補助対象範囲が広がったことにより、申請者の増加が予想され、研究補助金として有効活用されることが期待できる。

### (3) 在外・国内研究費、海外研修費

在外研究員への応募者数が定数を超えた場合は、過去に在外研究員に任命されたことがあるかどうか、在職年数は何年か、特定の学科に偏らないよう同一学科等からは毎年度1名まで、と言うような内規に基づき審査している。在外研究費は、交通費と滞在費（1日当たり8,400円）から成りしばらく改定されていない。問題点としては、所属する教員数によっては、応募がしやすい研究室とそうでない研究室があることや条件が同じ時は在職年数が多い者から任命するため若手教員からの応募が少ないこと等が挙げられる。

国内研究員は、応募者が少なく2005及び2006年度に各1名であった。在外研究員、国内研究員単位の定数設定が妥当なのか検討する必要がある。

また、海外研修者への補助は2006年度で見ると支給件数22件、総額1,000万円強となっている。

### (4) 共同研究助成費

申請された共同研究助成費の総額は、予算額を超えていることがほとんどである。助成審査委員会では、各研究グループの課題について、本学が助成することが適当な研究なのか、共同研究としてふさわしいテーマ及び内容を含んでいるのか、また研究の独自性・具体性の観点からも審査を行う。審査の結果、助成を行うことで委員の一致を見た場合は、予算内に収まるように助成額の圧縮、研究支出項目の見直し等を研究代表者に提示し、提示した金額で研究を遂行できるのか、あるいは研究内容の部分的変更が可能か調整することになる。

助成期間は原則1年とするが、研究内容により複数年にわたる研究期間が必要と判断された場合には、審査の上助成期間が延長される。しかしながら、申請し助成費の交付は受けたものの1年間全く研究が進まず期間延長するケースが散見されることが、

問題点として挙げられる。

また研究成果については、共同研究助成の対象となった年度から3年以内に公表することとなっているが、期限内に公表がなされない研究グループもある。

## ●改善・改革方策

### (1)個人研究費

個人研究費については、年間を通してどんな研究活動を行ってきたのか、その活動内容・研究成果等を報告する必要があると考える。一番良いのは、個人研究費交付願提出時に前年度の結果報告書も併せて提出してもらうことだろう。さらに外部から研究助成金の積極的な獲得が望まれる。

### (2)研究調査出張補助

新たな規準が制定されたばかりなので、当面はこれを積極的に運用しながら、その適切性をはかる。

### (3)在外・国内研究費、海外研修費

国内研究員は応募者が多くても1名ということを見ると、在外研究員と国内研究員に分けて募集するのではなく、在外・国内研究員として定数設定し、応募状況によって振り分ける方が現実的だと考える。また、在外・国内研究員の募集に当たっては、派遣する教員のうち半数位は若手教員(30～40歳代)を対象を限定し、若手教員の研究機会拡大を図ることが望ましい。

また、「在外・国内研究員等規則」により研究成果を公表することになっているが、詳細な報告がなされないことがある。広く学内外に向けて研究成果を公表するよう徹底していくべきであり、その発表形式は、講義あるいは美術大学らしく美術資料図書館での公開展示等が考えられる。

### (4)共同研究助成費

共同研究が1年間を通して順調に進むかどうか、審査する側の委員にとっても申請時期に提出される計画書段階で判断し、その時点で不採択とするのは難しい。チェック機能として、例えば半年経過時点で、各研究グループに研究の進捗状況の中間報告等を求めていくことが必要であると考ええる。

研究成果については、積極的に公表していく必要がある。このことは、本学共同研究助成取扱基準に規定しているのみならず、日本私学事業団による「補助金事前調査」においても積極的な公表、つまり少なくとも「研究紀要」と同等レベルの刊行物に掲載するのが望ましいと指摘している。研究成果の公表については、公の場で詳細な説明を求め、申請段階での具体的・詳細な研究計画の提出を促していくことが望ましい。また現時点では、研究成果物の点検・評価を大学として行っていないが、正當に評価するシステムの整備が必要であると考ええる。



【競争的な研究環境創出のための措置】

C群 科学研究費補助金及び研究助成財団などへの研究助成金の申請とその採択の状況

●現状把握

(1) 科学研究費補助金

科学研究費補助金については、文部科学省及び日本学術振興会から来年度の公募通知があった後、教授会で全専任教員に対し学内締め切りを設けて申請を呼び掛けている。申し出のあった教員には、補助金公募要領、研究計画調書作成・記入要領を手渡し、申請を促している。

本学の専任教員が研究代表者として、科学研究費補助金を申請している件数は、下表のとおり 2004～2006 年度までの過去 3 年間で新規 11 件、継続 6 件計 17 件である。このうち、採択された件数は、新規 3 件、継続 6 件の計 9 件となっている。採択率及び補助金額は記載のとおりである。種目別に見ると、基盤研究 (B) が中心となっている。ただし、本学の専任教員が研究分担者として科学研究費補助金を受けた共同研究については、ここでは取り上げていない。

科学研究費補助金申請採択状況 (2004 年度～2006 年度)

年度	申請件数			採択件数			採択率(採択件数/申請件数)			補助金額 (千円)		
	新規	継続	合計	新規	継続	合計	新規	継続	合計	新規	継続	合計
2004 年度	4	3	7	1	3	4	25%	100%	57%	5,000	7,600	12,600
2005 年度	4	2	6	0	2	2	0	100%	33%	0	8,800	8,800
2006 年度	3	1	4	2	1	3	67%	100%	75%	8,300	3,900	12,200

※2006 年度には、間接経費として 2,490 千円が交付。

※研究成果公開促進費及び特別研究員奨励費は除く。

2002 年度から 2006 年度までの採択された研究は、本項目末の資料 6 のとおりである。

(2) 委託研究費

2004 年 2 月 1 日から法人事務部に研究支援センターが設置されると共に、「学校法人武蔵野美術大学産官学共同研究規則」が制定・施行された。研究支援センターでは、①産官学共同研究についての契約、経費管理及び支援に係る業務、②産官学共同研究を含む研究支援に関する企画調査に係る業務、を担当することとなった。また、学長の指名する教職員で構成する「産官学共同研究推進委員会」が設置され、①産官学共同研究の企画調査に関する事項、②産官学共同研究のコーディネート、契約、報告及

び広報の実務に関する事項、③その他必要な検討事項、を検討することとなった。

2003年度から2006年度のプロジェクトは、本項目末の資料7のとおりである。

### ●点検・評価

「教員研究費内訳(大学基礎データ表32)」によると、2004～2006年度研究費総額は1億円を超えていることが分かる。研究費総額に対する学内研究費(個人研究費及び共同研究費)の割合は、69%、73%、72%と推移し約7割を占めており、この割合は直近3年間では大きな変化は見られない。一方学外研究費については、2001及び2002年度の研究費総額に対する割合が10%前後だったものが、2003年度に26%余りまで伸び、その後その水準を維持し、その後は30%前後で推移している。この学外研究費の増加は、産官学共同研究費の獲得に拠る所が大きい。

また学外研究費のうち、科学研究費補助金の占める割合は30～40%となっているが、新規申請件数が3～4件と少ないこと、実際に科学研究費補助金を獲得しているのが特定の教員に限られていること等が課題として挙げられる。

### ●改善・改革方策

本学の教育研究活動の一層の充実を図るには、科学研究費補助金、産官学共同研究費を始めとする競争的外部資金を獲得し、資金を有効活用することが不可欠である。特に科学研究費補助金の更なる獲得に向け、専任教員より積極的な申請がなされることが期待される。それには、広く学内に申請時期、申請方法、必要書類等情報を提供し応募を求めるのは当然のこととして、全専任教員が競争的外部資金獲得に向けた明確な目的意識を持つことが必要であると考え。科学研究費補助金の申請を増やす方策として、申請したが採択されなかった教員に対して新たなプラスの研究費となる「奨励研究費」等の創設が考えられる。産官学共同研究については、地方自治体、企業を中心に様々なプロジェクトが展開されており、日頃から企業等と関わりを持つ努力が重要である。

また今後は研究活動に対する補助金だけでなく、教育活動、つまり教育方法の改善や教材の開発等への補助金についても情報を提供し獲得を目指していくべきである。

### 【経常的な研究条件の整備】

---

#### A群 教員個室等の教員研究室の整備状況

### ●現状把握

「教員研究室(大学基礎データ表35)」のとおり、専任教員には個室の研究室が配当されている。個室1室当たりの平均面積は24.5㎡あり、また各学科・専攻の研究室を含めた教員1人当たりの平均面積は67.8㎡となっている。個人研究室には、空調、電話、インターネットが接続可能な環境が整備されており、常時使用が可能である。

## 研究活動と研究環境

標準的な備品は、机、いす、本棚、パソコン等が設置されている。

### ●点検・評価

専任教員は全員個室研究室が配当されており、教育研究の場が確保されていると言えるが、建物を整備した時期によって広さ、設備、備品等に個人差が生じている場合がある。

### ●改善・改革方策

専任教員全員に個室研究室が配当されていることは、教育研究環境整備の面から大変望ましいが、広さ、設備、備品、そして環境面も含めた不公平感のない統一が望まれる。なお、現在建築中の2号館（アトリエ棟）には、第1期工事（2007年3月完成）として彫刻個人研究室が配置され、第2期工事（2008年3月完成予定）として油絵・版画個人研究室が配置予定である。

### 【経常的な研究条件の整備】

---

A群 教員の研究時間を確保させる方途の適切性

A群 研究活動に必要な研修機会確保のための方策の適切性

### ●現状把握

本学専任教員の責任授業時間数（1授業時間は45分）は、「学校法人武蔵野美術大学服務規則」により実習科目担当教員は毎週20時間、演習科目担当教員は毎週12時間、講義科目担当教員は毎週10時間と規定されている。「専任教員の担当授業時間（大学基礎データ表22）」によると、担当授業の最高時間数は33.8時間となっている。担当授業時間数が極端に少ない専任教員は、補職に就いている教員や特別任用専任教員等である。

また研究活動に必要な研修機会確保のための方策としては、「学部における研究環境・経常的な研究条件の整備」の項で既述したように在外・国内研究員制度、海外研修制度及び研究調査出張補助制度等がある。

### ●点検・評価

専任教員の実際の担当授業時間数は、学科・研究室によってあるいは個々の教員によって差が生じている。さらに授業だけでなく、授業時間数には表れてこない学生への指導時間、入試関連業務や各種委員会の委員等学内運営に費やす労力と時間が増大してきている。

学長補佐、教員部長等の補職者については、各種会議等学内運営に費やす時間の増大が見込まれることから、担当授業時間の減免を行う配慮をしている。

### ●改善・改革方策

担当授業時間の格差については、学科・研究室の授業内容、教育方針、学生への指導状況等により異なってくるため、単に時間数によって一概に比較することは出来ない。

各種委員会委員等の学内運営については、特定の教員に業務が集中しないよう負担の平等化が求められる。また併せて会議等の効率化、その運用の在り方についても検討していく必要がある。

### 【研究上の成果の公表、発信・受信等】

---

#### C群 研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性

### ●現状把握

本学専任教員への研究論文・研究成果の公表支援策としては、本学研究紀要への掲載の他に一般学術図書及び作品図録を出版する際に助成する出版助成制度があり、その対象及び金額は次のとおりである。

(1)定年に達する、あるいは定年間近の講義系科目担当教員又は在職20年を過ぎた講義系科目担当教員に対して、一般学術図書の出版に際し150万円を上限として助成を行う。

(2)実技系科目担当教員で、退職時に美術資料図書館で展覧会を行う場合は、開催に係る経費として、会場構成施工費、作品運搬費、展覧会カタログ制作費、広報印刷物発送費等について助成を行う。

(3)実技系科目担当教員で、退職時に美術資料図書館で展覧会を行わず作品図録を出版する場合は、200万円を上限として助成を行う。

助成の条件としては、助成された年度内に出版できることが必要であり、また助成は1人1回に限っている。

2002年度から2006年度までの出版助成の対象者は、本項目末の資料8のとおりである。

### ●点検・評価

出版助成制度は、基本的には定年に達する、あるいは定年間近の専任教員を対象としており、専任教員全員を対象とした学術図書刊行を助成する制度は本学では持っていない。しかしながら、本学が株式会社武蔵野美術大学出版局に100%出資しているため、学術書等を出版しやすいメリットがある。

●改善・改革方策

出版助成や展覧会開催に係る経費補助は、定年時に限らず随時なされるのが望ましい。

【目標】

教員が質の高い教育研究活動を遂行できるよう、個人研究費および研究旅費の規則を整備し、適正な活用を推進する。教員の個人研究室についてはこれまでどおり、100%の個室化を推進すると同時に、スペースや設備、備品を公平に整備する。

また、研究活動の活性化をはかるため、教員の研究活動に必要な研修機会を確保するとともに、授業や管理運営の負担が過重にならないように配慮し、在外・国内研究員および海外研修制度の活用を推進する。

3) 大学院における研究活動

【研究活動】

---

A群 論文等研究成果の発表状況

●現状把握

本大学院では、大学院専任教員は置かず、造形学部の専任教員が大学院の授業を兼担しているため、造形学部の現状把握に準ずる。大学院教員として独立して論文等研究成果の発表は行っていない。

●点検・評価

本大学院では、大学院専任教員は置かず、造形学部の専任教員が大学院の授業を兼担しているため、造形学部の点検・評価に準ずる。

●改善・改革方策

本大学院では、大学院専任教員は置かず、造形学部の専任教員が大学院の授業を兼担しているため、造形学部の改善・改革方策に準ずる。

【教育研究組織単位間の研究上の連携】

---

A群 附置研究所とこれを設置する大学・大学院との関係

●現状把握

現在までのところ、本大学院には附置研究所を設置していない。

4) 大学院における研究環境

【経常的な研究条件の整備】

---

A群 個人研究費、研究旅費の額の適切性

A群 教員個室等の教員研究室の整備状況

A群 教員の研究時間を確保させる方途の適切性

A群 研究活動に必要な研修機会確保のための方策の適切性

B群 共同研究費の制度化の状況とその運用の適切性

【競争的な研究環境創出のための措置】

---

C群 科学研究費補助金及び研究助成財団などへの研究助成金の申請とその採択の状況

【研究上の成果の公表、発信・受信等】

---

C群 研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性

●現状把握

本大学院では、大学院専任教員は置かず、造形学部の専任教員が大学院の授業を兼担しているため、造形学部の現状把握に準ずる。

●点検・評価

本大学院では、大学院専任教員は置かず、造形学部の専任教員が大学院の授業を兼担しているため、造形学部の点検・評価に準ずる。

●改善・改革方策

本大学院では、大学院専任教員は置かず、造形学部の専任教員が大学院の授業を兼担しているため、造形学部の改善・改革方策に準ずる。

## 研究活動と研究環境

### <資料 1> 2002 年度から 2006 年度までの研究紀要の研究論文名・執筆者、制作ノート作者及び編集委員

2002 年度研究紀要

#### 【研究論文名・執筆者】

論文名	執筆者
フランソワ・モーリアックにおける「獣」のイメージ	藤田尊潮
研究論文の導入部のジャンル分析 －建築学の分野の分析を証拠として－	ポール カンダサミ
過程を表すフランス語名詞文について	川島浩一郎
視知覚的事象学 (Visio-Perceptual Eventology) への接近／試論 (4) －言語デザイン (Language Design) としてのプログラミング言語 (Programming Language) におけるイベント (Event) 概念の諸相 の考察－	川島重治
芸術・科学・技術の創造的出会いを求めて －学生の意識調査による比較研究－	圓山憲子・逢坂卓郎・栗屋容子・ 齋藤嘉博・松居エリ
《i-art》論－現代アートの民俗 ③	中島智
粒度分布から見たピアノコ・サン・ジョヴァンニ	大野彩
オランダ東インド会社文書における肥前磁器貿易史料の基礎的研究 －1650 年代の史料にみる医療製品取引とヨーロッパ陶磁器の影響 －	櫻庭美咲
身体の形態と機能とデザインとの関係を計測機器を用いて検証する基礎的研究 ドアの開閉にともなう手の機能とその関係について (I)	真田日呂史・森江健二・安部泰人
アメリカ合衆国におけるヘイト・スピーチ規制立法をめぐる議論 －「文化戦争」と公権力の責任－	志田陽子
情報デザイン (5)、対話行為とインタフェース・デザイン －認知発達における対話行為、言語学における対話分析－	下村千早
狭小空間「ハット・環具」の研究 －環具：家具環境からの形成／家具と建築の一体化－	寺原芳彦・島崎信・椎名純子・ 中村万里・足立正・落合勉・ 山口泰幸・山田佳一郎・山口由加里・ 上村晴彦・滝田智美・鈴木友子

#### 【制作ノート作者】

遠藤彰子、久野和洋、水上泰財

#### 【編集委員】

栗屋容子、遠藤竜太、大平智弘、北澤洋子、今野勉、田中秀穂、長澤忠徳、袴田京太郎、上野芳朗

## 2003 年度研究紀要

## 【研究論文名・執筆者】

論文名	執筆者
広告色彩評価に関する先見敵研究 －日中台韓学生は公告の色彩表現をどう評価するかを予測する－	千々岩英彰・王超鷹・宋璽徳・申熙卿・崔貞伊・白石学
<目に見えるもの>と<目に見えないもの> －『星の王子さま』再読－	藤田尊潮
日本語の促音音素/q/と中和について	川島浩一郎
狂気のドラマツルギー	小石新八・内村世紀
<脱＝民俗学>としてのフィールドワーク －宮本常一論の視座－	中島智
伝統と刷新：屋台食に見る共進会の精神	大木理恵子
ミュージアム・イベントについての一考察 －実演芸術系の事業を中心に－	恩地元子
伝統的襖絵のデジタル復元手法の研究	杉本賢司
川村清雄作「振天府」の制作過程について－資料からの一考察－	竹中直
近代名作椅子の嗜好性と評価分析の基礎的研究『武蔵野美術大学近代椅子コレクション『名作椅子 130 脚に座る』－椅子デザインの系譜と座り心地－』展一般来場者アンケートより	島崎信・寺原芳彦・朝山隆・足立正・新見拓也・鈴木友子・山田佳一朗・中野公力
「桃山」イメージの創出－昭和戦前期の古陶磁愛好誌に探る	富田康子
洞窟のマレーヴィーチー芸術宗教学に向けて	山口拓夢
打具におけるリストトルクの比較検討－野球とゴルフの特性について	山本唯博・白善美・水口潔・小倉貢・青山晴雄

## 【制作ノート作者】

遠藤竜太、池田良二、三浦耐子、伊藤誠、黒川弘毅、最上壽之、那須勝哉、滝沢具幸、内田あぐり、柳澤紀子

## 【編集委員】

栗屋容子、遠藤竜太、大平智弘、北澤洋子、今野勉、田中秀穂、藤田尊潮、三浦耐子、稲葉直

## 2004 年度研究紀要

## 【研究論文名・執筆者】

論文名	執筆者
「undirected 1992-2002」の制作過程	クリストフ・シャルル
『現代批評理論』における「慣習」概念の諸相	金子伸二
舞台美術家・伊藤熹朔の舞台装置原画を読む	川口直次・多田忠弘・小石新八
聖母の子宮－ベッカフーミ作《三位一体と聖者たち》をめぐる	松原知生



## 研究活動と研究環境

試論	
アートの極東－リージョナルな美学のための芸術人類学序説－	中島智
古代ローマ壁画の技法に関する実験と考察	大野彩・鈴木忠
時代とジェンダーからみた〈シルバニアファミリー〉1985-2004	大木理恵子
「言語の誕生」	大木理恵子
狭小空間「HUT・2」の研究 空間の家具化／KD（ノックダウン）システムの可能性	寺原芳彦・足立正・山口泰幸
董源と其の時代の絵画をめぐって	王凱
情報科教育におけるデザイン概念の有用性の考察	八重樫文
両手リストのトルク測定に関する研究－グリップの4段階姿勢の検討－	山本唯博・白善美・水口潔・小倉貢・青山晴雄

### 【制作ノート作者】

原一史、小井土満、甲田洋二、峰見勝蔵、大浦一志、斎藤國靖、鈴木民保、多和圭三、戸田裕介

### 【編集委員】

栗屋容子、田中秀穂、遠藤竜太、藤田尊潮、北澤洋子、今野勉、三浦耐子、大平智弘、野中剛

## 2005年度研究紀要

### 【研究論文名・執筆者】

論文名	執筆者
日本・中国・台湾・韓国美術大学学生の色彩認知と色彩感情に関する交差文化的研究	千々岩英彰・森江健二・王超鷹・宋璽徳・崔貞伊・多賀いずみ・白石学
「アランの毛糸帽子会議」、人の持つ風景についての考察	出月秀明
美的判断力の可能性－シモーヌ・ヴェイユとハンナ・アーレント－	今村純子
いじめ・不登校経験と大学・短期大学進学との関係に関する考察	伊東毅
ESL 参考書に於ける言語的性差別：江川著『英文法解説』と Murphy 著 Grammar in Use の比較研究	ポール カンダサミ
美術作品の提示と受容に関する一考察 ミュージアム・グッズをめぐって	河原啓子
情報デザイナーは何をデザインするのか－可能性のデザイン方法論とワークショップ実践報告	宮田雅子
持ちやすい食器のデザインの基礎的調査－ユニバーサルデザインの伝統工芸への応用－	森豪男・出羽重遠・福田寿寛・下田圭一
贈与論－テクネー、もしくは非対称性思考についての芸術人類学的考察－	中島智
フレスコにおけるピアンコ・サン・ジョヴァンニに関する実験(2)－繰り返しによる粒度分布の変化及び、有色顔料との混色による	大野彩

効果についてー	
ピンクレモネードの履歴書	大木理恵子
アール・ヌーヴォー期における造形研究 キルンワーク（パート・ド・ヴェール）におけるガラスの黒色変化と発泡現象について	齋藤昭嘉・近岡令・篠原規行
情報デザインをとおして情報学と記号論を結びつける試み：情報デザイン（6）	下村千早
動詞型に基づく文型についての一考察ー会話のための英作文指導の観点から	高市美千佳
朗世寧の「魚藻図」（台湾・故宮博物院収蔵）について	王凱
夢見るコギトー存在を詩で語るということ	山口拓夢
「トルク測定に関する研究ー股関節筋力評価測定装置の開発と測定評価ー」	山本唯博・白河善美・水口潔・小倉貢・青山晴雄・穂田清・三浦邦彦・野口邦子・李敬玉
尾形光琳の絵画学習と画風形成について	江村知子
贈与論ーテクネー、もしくは非対称性思考についての芸術人類学的考察ー	中島智
《イマージュ》の修辞学ーバルクソン『物質と記憶』におけるー	富松保文

【制作ノート作者】

榎原泰介、岡本純一、奥山直人

【編集委員】

粟屋容子、玉蟲敏子、遠藤竜太、藤田尊潮、三浦耐子、大平智弘、鈴木民保、寺山祐策、野中剛

2006 年度研究紀要

【研究論文名・執筆者】

論文名	執筆者
無償の贈与の可能性ーソール・ベローの <i>Seize the Day</i> 再読ー	相原優子
「樹形図」の進化ースティーブン・J・グールドによる新たな進化イメージの表現についてー	平尾始
試論：「視覚装置」ーデジタルカメラ（映像）ー について	柏木博
美術作品のオリジナルを見る意義についての試論	河原啓子
〈画家〉とは誰のことなのかー宇野浩二『枯木のある風景』論	菊池薫
デザイン、芸術表現の「場」としての近代化遺産の保存と活用に関する一考察	小池利佳
ファン・アンドレス・リシに関する一考察ー《聖ベネディクトゥスの夕食》の主題をめぐってー	楠根圭子

## 研究活動と研究環境

関係詞の指導法についての一考察	野口克洋
「フレスコにおけるビアンコ・サン・ジョヴァンニとチナプレーゼに関する実験」	大野彩
〈あし〉を視る ―身体の博物誌への一試論	恩地元子
広重名所絵における「由緒」のイメージ ―「立札」モチーフをめぐって―	鶴岡明美
郎世寧の鶴図愚意を読み解く	王凱
デザイン課程におけるコンセプト・メイキング方法論	山口泰幸
イギリス労働者スポーツ連盟の組織的二面性について―1930年代イギリススポーツ史の一断面―	青沼裕之

### 【制作ノート作者】

新正卓、出月秀明、槇原泰介、松野良則、岡安真成、三本松淳、山崎博

### 【編集委員】

栗屋容子、玉蟲敏子、藤田尊潮、楫義明、三浦耐子、森山明子、鈴木民保、寺山祐策、上野敬子

## &lt;資料 2&gt; 2002 年度から 2006 年度研究集会の発表内容及び発表者等

## 2002 年度研究集会

	開催日	会場	内容	発表者
前期	7月4日(木)	本学 9号館2階 205教室	研究発表①「美術と科学の創造的出会い(その共通言語の探求)」について	逢坂卓郎 教授 ／空間演出デザイン 学科
			研究発表②「美術館など文化施設の運営調査研究」について	岡部あおみ 教授 ／芸術文化学科
			研究発表③「3Dモデリング研究」について －三次元CADデータから造形装置(光造形機・紙積層造形機)を使用して立体モデルを制作するための研究－	宮島慎吾 教授 ／基礎デザイン学科
			研究発表④「山形金属工芸とネパール金属工芸の比較研究IV」について	小井土満 教授 ／共通デザイン研究 室
後期	開催無し			

## 2003 年度研究集会

	開催日	会場	内容	発表者
前期	7月3日(木)	本学 12号館 2階 201教室	研究発表「日中台韓の美大生は色をどう感じているか」－2002年度、本学(共同研究)及び吉田秀雄記念事業財団の助成研究で明らかにできたこと－	千々岩英彰 教授 ／一般教育研究室
後期	12月4日(木)	本学 9号館2階 205教室	研究発表「E-learning 地図の伝送」 －通信教育における、インターネットを活用した新しいデザイン教育の実践－	陣内利博 教授 ／視覚伝達デザイン 学科

## 2004 年度研究集会

	開催日	会場	内容	発表者
前期	6月28日(月)	本学 12号館 8階 第1会議室	研究発表「産学協同プロジェクトについて」 －「Nプロジェクト」日産自動車(株)の事例－	宮島慎吾 教授 ／基礎デザイン学科 真田日呂史 教授、 森江健二 教授、 中原俊三郎 教授 ／工芸工業デザイン学 科
後	11月25日(木)	本学	研究発表「学生による授業評価について」	森山明子 教授、

研究活動と研究環境

期		9号館2階 211教室		今泉洋 教授 ／デザイン情報学科 戸田裕介 助教授 ／共通彫塑研究室 花光里香 助教授 ／外国語研究室
---	--	----------------	--	--

2005年度研究集会

	開催日	会場	内容	発表者
前期	6月27日(月)	本学 12号館 8階 第1会議室	「科学コミュニケーション」について 共同研究／未来材料のデザイン表現研究の 成果	宮島慎吾 教授 ／基礎デザイン学科 板東孝明 教授 ／基礎デザイン学科
後期	11月24日(木)	本学 12号館 21講義室 201教室	(1) 両次大戦間における造形表現の古典主義への回帰傾向に関する研究 (2) 齋藤素巖と構造社 <戦争>と公共彫刻の世代	(1) 酒井道夫 教授 ／通信教育課程 長谷川堯 教授 ／造形文化研究室 小林昭世 教授 ／基礎デザイン学科 (2) 高島直之 教授 ／芸術文化学科 黒川弘毅 教授 ／彫刻学科

2006年度研究集会

	開催日	会場	内容	発表者
前期	6月26日(月)	本学 9号館 206教室	「芸術教育最新国際事情－武蔵野美術大学の国際交流 協定大学の特色と交流について」	長澤忠徳 教授 ／デザイン情報学科
後期	11月27日(月)	本学 12号館 23講義室 302教室	ドキュメント映像報告－フランス最新図書館事情	陣内利博 教授 ／視覚伝達デザイン学科 本庄美千代 ／美術資料図書館事務部長 加藤賢策 ／基礎デザイン学科 非常勤講師

<資料3> 2002年度から2006年度までの在外・国内研究員  
在外研究員

2002年度／長期

---

● 峰見勝藏 教授／共通絵画研究室

2002年8月1日～2003年7月31日 滞在期間 364日間

イタリア（ローマ）

【研究課題】

主としてイタリア国内において、初期キリスト教美術、ビザンティン、ロマネスク、ゴシック、そしてルネッサンスと転換する時代、及びそれらの時代と絵画表現の技法、思考、表現様式の展開を見学したい。EU諸国、ロシア、東欧へも同じ主旨で訪ね、学びたい。

---

● 鈴木久雄 教授／共通彫塑研究室

2003年3月20日～2004年3月19日 滞在期間 364日間

デンマーク、ドイツ、イギリス、フランス、イタリア、スペイン

【研究課題】

「彫刻の本来部分」について、主に日・欧造形美術の対照のなかで探る。

---

2002年度／短期

---

● 青木正夫 教授／視覚伝達デザイン学科

2002年7月1日～2002年9月30日 滞在期間 90日

ドイツ（ベルリン）

【研究課題】

ロシア構成主義とその周辺に与えた影響力

---

● 竹山実 教授／建築学科

2002年4月1日～2002年8月31日 滞在期間 152日間

カナダ（バンクーバー）、アメリカ（ボストン）、デンマーク（コペンハーゲン）

【研究課題】

- 1) バナキュラーな建築形態とその集合形式について（観察と資料収集）
  - 2) 海外の建築教育の現場視察（スタジオ参加と教育環境の見学）
- 

2003年度／長期

---

● 逢坂卓郎 教授／空間演出デザイン学科

2003年4月1日～2004年3月31日 滞在期間 365日間

ドイツ（ベルリン他）、フランス（パリ）、イタリア（ミラノ）、フィンランド（ヘルシンキ）、オランダ（アムステルダム）

【研究課題】

- ①ドイツを中心とするユーロ各国の新しい芸術の試みを調査する。
  - ②ユーロの研究、教育機関を訪問、滞在し研究と教育の目指す方向を探る。
  - ③制作・展示を行い、理解と交流を図る。
- 

● 内田あぐり 教授／日本画学科

## 研究活動と研究環境

2003年9月1日～2004年8月31日 滞在日数 365日

アメリカ（ニューヨーク）、メキシコ、アルゼンチン（ブエノスアイレス）

### 【研究課題】

アメリカ及び中南米に於ける造形表現の研究

---

●下村千早 教授／視覚伝達デザイン学科

2003年9月1日～2004年8月31日 滞在日数 365日

アメリカ（ボストン）、ヨーロッパ各地

### 【研究課題】

アメリカにおける情報デザインの研究と調査

---

2003年度／短期

---

該当者なし

---

2004年度／長期

---

●椎名純子 教授／空間演出デザイン学科

2004年4月1日～2005年3月31日 滞在日数 364日

フランス、ベルギー、オランダ、スイス、ドイツ、フィンランド、スウェーデン、デンマーク、イタリア、スペイン、ポルトガル

中国（上海戯劇学院、黄土高原地域、福建地域、雲南地域）、タイ、インドネシア、インド

### 【研究課題】

①フランス国内及びその周辺国のエコ・ミュゼの比較研究。

②アジア（特に中国）各地域における日常と非日常空間の比較研究と居住形態調査。

---

●川島重治 教授／基礎デザイン学科

2004年8月1日～2005年7月31日 滞在日数 364日

イギリス（ロンドン）、アメリカ（ニューヨーク）、フランス（パリ）

### 【研究課題】

ヨーロッパ諸国・アメリカにおける歴史・風土と生活環境デザインとの関係性ならびにデジタル情報環境としての都市環境の在り方の動向調査

---

2004年度／短期

---

●伊藤高弘 教授／保健体育研究室

2004年9月1日～2005年2月28日 滞在日数 180日

フランス（パリ）

### 【研究課題】

現代フランスのスポーツ法制とスポーツ運動に関する研究—特に 2000 年法制下での行財政と運動について

---

●廖赤陽 教授／一般教育研究室

2004年9月1日～2005年2月28日 滞在日数 180日

シンガポール、フィリピン、香港、中国（廈門）

### 【研究課題】

東・東南アジアにおける華人ネットワーク、社会文化とエスニシティに関する調査研究

2005年度／長期

---

●水上泰財 助教授／油絵学科

2005年9月1日～2006年8月31日 滞在日数 364日

オーストリア（ウィーン）、ハンガリー（ブダペスト）、チェコ（プラハ）

**【研究課題】**

① ヴリューゲル等のフランドル絵画の技法的研究や、ウィーン世紀末芸術、ウィーン幻想派等のウィーンを中心とした独特な具象絵画の研究。

② アジア系の民族が住むハンガリーを中心に中央の歴史と文化の研究。

---

●原 一史 助教授／共通絵画研究室

2005年12月20日～2006年12月19日 滞在日数 364日

イタリア（ローマ）、エジプト（カイロ）

**【研究課題】**

① 古代オリエント美術とギリシャ・ローマ美術における造形美術の普遍性について

② 西洋美術史、東洋美術史の比較研究及び関連性について

③ 欧州における美術教育の現場視察と教材研究

---

2005年度／短期

---

●柏木博 教授／造形文化研究室

2005年9月1日～2006年2月28日 滞在日数 180日

アメリカ合衆国（ニューヨーク）

**【研究課題】**

アメリカにおけるモダンデザイン、およびドメスティック・サイエンスの歴史研究

---

●藤枝晃雄 教授／造形文化研究室

2005年4月1日～2005年9月14日 滞在日数 166日

アメリカ合衆国（フィラデルフィア）

**【研究課題】**

現今の美術動向の調査・研究

---

2006年度／長期

---

●小松誠 教授／工芸工業デザイン学科

2006年4月1日～2007年3月31日 滞在日数 364日

フィンランド（ヘルシンキ）、スウェーデン（ストックホルム）、スウェーデン（ゲーテボルグ）、ドイツ（ハレ）、オランダ（ヘルトゲンボッシュ）、イタリア（フェアンツア）、中国（北京）、中国（上海）、中国（景德鎮）、アメリカ（ニューヨーク）、

**【研究課題】**

工芸（陶磁）における作る事と教える事の考察

---

●岡部あおみ 教授／芸術文化学科

2006年4月2日～2007年3月31日 滞在日数 363日



## 研究活動と研究環境

アメリカ（ニューヨーク）、

### 【研究課題】

ニューヨーク大学におけるミュージアム・スタディーズとアートマネジメントの授業形態と大学美術館を含める新設美術館群の研究

---

●相沢韶男 教授／教養文化研究室

2006年9月1日～2007年8月31日 滞在日数 364日

上海・寧波・西安・北京、敦煌・烏魯木齊、喀什、雲南省・昆明、貴州省・貴陽、広西チワン族自治区・南寧、広東省・広州、チベット自治区・ラサ、香港・福州・杭州、

### 【研究課題】

日本人の生活文化の源流を探る（物質文化を中心に）

1. 茶と餅の来た道
2. 仏の来た道

2006年度／短期

該当者無し

## 国内研究員

2002年度／長期

---

●小久保明浩 教授／教職課程研究室

2002年4月1日～2003年3月31日

東京都公文書館ほか

### 【研究課題】

塾の歴史の研究－近代日本教育の底流－

2002年度／短期 なし

---

2003年度／長期 なし

---

2003年度／短期 なし

---

2004年度／長期 なし

---

2004年度／短期 なし

---

2005年度／長期

---

●森豪男 教授／空間演出デザイン学科

2005年4月1日～2006年3月31日

秋田県立大学木材高度加工研究所、福島県ハイテクプラザ、大分県日田林業試験所等

### 【研究課題】

テーマ：デザインを林業に結びつける。

課題：樹木の持つ原始の生命力にデザインの力を注入する。デザインによって生かされた木は都市に送られ、人間的有機的な生活・都市環境を創造する。

2005年度／短期 なし

---

2006年度／長期

---

●源愛日児 教授／建築学科

2006年4月1日～2007年3月31日

東京大学工学部建築学科建築史研究室

**【研究目的及び研究課題】**

日本の歴史的木造建築の構造技法に関する研究

・寺社、殿舎、民家など様々な建築の構造技法について、その成り立ち、変遷、影響関係を中心に、海外の木造架構との比較、東アジア建築からの影響についても視野に入れながら、調査・研究する。

2006年度／短期 なし

---

研究活動と研究環境

<資料 4> 2002 年度から 2006 年度までの海外研修者（専任教員）

海外研修者／専任教員

2002 年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
面出薫 教授 ／空間演出デザイン学科	ドイツ (フランクフルト)	2002 年 4 月 13 日～ 2002 年 4 月 19 日	Frankfurt MESSE 2002 において招待講演を行う為。
戸田裕介 助教授 ／共通彫塑研究室	韓国 (釜山、保寧)	2002 年 4 月 16 日～ 2002 年 4 月 20 日	「釜山ビエンナーレ 2002」、 「釜山彫刻プロジェクト」 招待参加の事前打合せ。
新見隆 教授 ／芸術文化学科	デンマーク (コペンハーゲン)、オーストリア (ウィーン)	2002 年 4 月 26 日～ 2002 年 5 月 6 日	ジョージ・ジェンセン・デザイン賞授与委員会出席。 ウィーン世紀末デザイン展 打合せ
栗屋容子 教授 ／一般教育研究室	イタリア (ローマ)	2002 年 6 月 22 日～ 2002 年 7 月 1 日	国際学会「19th International Conference on X-ray and Inner-shell Processes」に出席。(内殻 電子過程のセッションにおいて座長を勤める)
島崎信 教授 ／工芸工業デザイン学科	ポーランド (ポズナム、 ワルシャワ)	2002 年 5 月 6 日～ 2002 年 5 月 13 日	ポーランド産業省と JETRO による「ポーランド家具対 日振興計画」の立案者として、関係者との協議。ポズナム国際家具展の視察とデザイン資料収集。
小石新八 教授 ／通信教育課程研究室	中国 (北京)	2002 年 6 月 10 日～ 2002 年 6 月 17 日	中国戯曲学院特別講義、及び中国戯劇学院 50 周年記念事業出席。
向井周太郎 教授 ／基礎デザイン学科	ドイツ (ミュンスター)	2002 年 7 月 1 日～ 2002 年 8 月 31 日	ミュンスター大学コミュニケーション科学研究所での研究滞在。「デザイン思想とモルフォロジー研究について」の関連研究機関の調査。
新見隆 教授 ／芸術文化学科	韓国 (ソウル)	2002 年 6 月 28 日～ 2002 年 6 月 30 日	エルメス社デザイン賞の審査。
新島実 教授 ／視覚伝達デザイン学科	韓国 (ソウル)	2002 年 7 月 7 日～ 2002 年 7 月 13 日	弘益大学主催「ワークシ ップー都市の知覚と記述され た経験」に出席、及び「デ

			ザインにおける知覚とその記述」の講演のため。
寺山祐策 教授 ／視覚伝達デザイン学科	韓国（ソウル）	2002年7月8日～ 2002年7月14日	韓国弘益大学において行われる日中韓3ヶ国のワークショップに招聘され、学生と共に参加する。また「アートセンター・ナビ」において講義を行う。
白石美雪 教授 ／一般教育研究室	オーストリア （ザルツブルグ）	2002年8月7日～ 2002年8月21日	ザルツブルグ音楽祭の取材。
佐藤淳一 助教授 ／デザイン情報学科	ノルウェー、 スウェーデン、 フィンランド、 デンマーク	2002年8月20日～ 2002年9月6日	北欧地域におけるネットワーク系メディアの利用に関して、現状の把握とデータの収集。
寺山祐策 教授 ／視覚伝達デザイン学科	ロシア（モスクワ・ サンクトペテルブルグ）	2002年8月25日～ 2002年9月2日	エル・リシツキーに関する資料収集と現地調査の為。
玉蟲敏子 教授 ／美学美術史研究室	フランス（パリ）	2002年8月25日～ 2002年9月2日	フランス国立図書館東洋写本室・版画室において江戸時代の版本等の調査・研究。
栗屋容子 教授 ／一般教育研究室	フランス（カーン）	2002年8月28日～ 2002年9月8日	フランス Caen 大学で開催される「第11回高電離イオン物理学国際会議」に出席のため。
朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	韓国（ソウル）	2002年7月5日～ 2002年7月7日	学会参加および受賞
朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	カンボジア （シェムリアップ）	2002年7月26日～ 2002年8月27日	カンボジアのシェムリアップにあるバイヨン寺院の実地調査
廖赤陽 教授 ／一般教育研究室	中国	2002年8月1日～ 2002年9月5日	学会出張と現地考察
椎名純子 教授 ／空間演出デザイン学科	フランス（パリ）	2002年8月14日～	フランス西南部エコ・ミューゼ視察。プロジェクト打合せ。
藤枝晃雄 教授 ／美学美術史研究室	アメリカ （フィラデルフィア他）	2002年8月27日～ 2002年9月6日	①ザ・ポロック・グラスナー・ハウス・アンド・スタディ・センターにおけるラウンド・テーブル・ディスカッション ②ペンシルヴェニア大学付

研究活動と研究環境

			属考古学博物館におけるシュメール文化の資料調査
戸田裕介 助教授 ／共通彫塑研究室	韓国（釜山）	2002年9月13日～ 2002年9月16日	釜山ビエンナーレ／彫刻プロジェクト出品作品セッティング調整、及び展覧会オープニング出席のため。
今井良朗 教授 ／芸術文化学科	アメリカ （ニューヨーク他）	2002年9月29日～ 2002年10月5日	フレイザー氏所蔵コレクション購入に関する助言、およびクーパー・ヒューイット・ミュージアム、写真センター、MOMA などにおける美術館教育、地域活動の調査。
小竹信節 教授 ／空間演出デザイン学科	ルーマニア、 フランス、 イギリス	2002年10月5日～ 2002年11月6日	イヨネスコ作、イオン・カラシトル演出「マクベット」ヨーロッパ公演の舞台美術担当者として。
今井良朗 教授 ／芸術文化学科	ドイツ、 オーストリア、 イタリア	2002年10月19日～ 2002年10月30日	ドイツ Fachhochule Münster University of Applied Science での特別講義、および学生作品交換展など交流のための意見交換。
戸田裕介 助教授 ／共通彫塑研究室	韓国（釜山）	2002年7月27日～ 2002年8月27日	釜山ビエンナーレ「釜山彫刻プロジェクト」招待参加、現地制作のため。
新見隆 教授 ／芸術文化学科	シンガポール、 ベトナム（ホーチミン・ハノイ）	2002年9月13日～ 2002年9月18日	国際交流基金主催「日本のデザイン展」開催館の視察のため。
岡部あおみ 教授 ／芸術文化学科	アメリカ （ニューヨーク）	2002年9月29日～ 2002年10月4日	クーパーヒューイット・ミュージアム、写真センター、MOMA などにおける美術館教育、地域活動の調査（共同研究）
千々岩英彰 教授 ／一般教育研究室	中国（上海）	2002年1月20日～ 2002年10月24日	共同研究の調査と打合せのため
山本唯博 教授 ／保健体育研究室	韓国（ソウル）	2002年10月28日～ 2002年11月2日	梨花女子大学校体育科学大学での特別講義
森豪男 教授 ／空間演出デザイン学科	アメリカ （ニューヨーク）	2002年10月30日～ 2002年11月7日	ニューヨークの空間演出、フィールドワーク

研究活動と研究環境

朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	韓国（ソウル他）	2002年10月30日～ 2002年11月6日	韓国の仏教寺院址の調査
田中秀穂 教授 ／工芸工業デザイン学科	韓国（ソウル）	2002年11月5日～ 2002年11月8日	富山県平村の産業である、和紙の紹介、およびくちぎり絵＞作品の展示を含めた平村文化の紹介、ワークショップ、韓国側の作家達（大学関係者）との交流の指導と弘益大学主催ファイバーアートの審査のため。
今泉洋 教授 ／デザイン情報学科	オランダ （アムステルダム）	2002年11月13日～ 2002年11月19日	第7回 Doors of Perception 国際会議、及び、インタラクティブデザイン教育者会合出席のため。
長澤忠徳 教授 ／デザイン情報学科	オランダ （アムステルダム）	2002年11月13日～ 2002年11月19日	第7回 Doors of Perception 国際会議、及び、インタラクティブデザイン教育者会合出席のため。
朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	カンボジア （シェムリアップ）	2002年12月16日～ 2003年1月12日	ユネスコ活動（日本国政府アンコール遺跡救済チームの美術史班班長としての活動）
三浦耐子 教授 ／日本画学科	イタリア（ローマ）	2002年11月4日～ 2002年11月10日	彩色文化財の材料と技法に関する研究。
小石新八 教授 ／通信教育課程研究室	中国（上海 他）	2002年12月23日～ 2003年1月5日	上海戯劇学院の范教授他と共同研究として雲南省西部地区の民俗衣装、居住形態、民俗芸能と風土性を中心とした調査活動を行う。
田中栄作 教授 ／空間演出デザイン学科	フランス、ドイツ	2002年10月24日～ 2002年11月3日	資料収集と研究、空間造型・企画打合せ
源愛日児 教授 ／建築学科	アメリカ	2002年11月11日～ 2002年11月17日	講義と講評
廖赤陽 教授 ／一般教育研究室	アメリカ	2002年11月27日～ 2002年12月1日	研究発表
佐々木成明 助教授 ／視覚伝達デザイン学科	韓国（ソウル）	2002年12月3日～ 2002年12月5日	学会シンポジウム出席
椎名純子 教授 ／空間演出デザイン学科	中国（上海 他）	2002年12月23日～ 2003年1月5日	上海戯劇学院の范教授他と共同研究として雲南省西部

研究活動と研究環境

			地区の民俗衣装、居住形態、民俗芸能と風土性を中心とした調査活動を行う。
内田あぐり 教授 ／日本画学科	アメリカ (ニューヨーク)	2003年1月4日～ 2003年1月15日	JAL 企画展覧会出品の為
今井良朗 教授 ／芸術文化学科	中国 (上海)	2002年12月15日～ 2002年12月18日	上海ビエンナーレ、上海博物館、上海の美術・デザイン等の調査等
楫義明 教授 ／芸術文化学科	中国 (上海)	2002年12月15日～ 2002年12月18日	上海ビエンナーレ、上海博物館、上海の美術・デザイン等の調査等
新見隆 教授 ／芸術文化学科	中国 (上海)	2002年12月15日～ 2002年12月18日	上海ビエンナーレ、上海博物館、上海の美術・デザイン等の調査等
関野吉晴 教授 ／一般教育研究室	ペルー	2002年12月18日～ 2003年1月4日	ペルー・アマゾン マチゲング族の 30 年間の文化変容のフィールドワーク
島崎信 教授 ／工芸工業デザイン学科	オーストリア	2003年2月15日～ 2003年2月20日	2003年3月17日より3月27日迄、田中記念室にて開催予定の「アドルフ・ロスと F.O. シュミット工房展-和と匠のコラボレーション-」の準備作業、展示資料借用品選定および打合せのため。
小島常成 教授 ／コンピュータ演習研究室	アメリカ	2003年2月26日～ 2003年3月6日	東京藝術大学芸術情報センターとの共同研究における MIT との事前折衝、ワシントン国立国会図書館のシステム研修・視察
玉蟲敏子 教授 ／美学美術史研究室	イギリス	2003年2月27日～ 2003年3月6日	大英博物館において3月1日に開催される KAZARI 展シンポジウムに出席するため ライデン国立民族学博物館にて江戸時代の版本の調査・研究。
白石美雪 教授 ／一般教育研究室	フランス	2003年2月28日～ 2003年3月4日	新作オペラの取材

田中秀穂 教授 ／工芸工業デザイン学科	韓国	2003年3月10日～ 2003年3月13日	日韓繊維美術展覧会<ポチヤジとふるしき>展 展示 & 交流のため
安部泰人 教授 ／保健体育研究室	オーストラリア	2003年3月27日～ 2003年3月31日	第6回ワールドカップ大会直前情報収集のため。Merrylandの35周年記念式典に参加するため。
廖赤陽 教授 ／一般教育研究室	香港	2003年3月12日～ 2003年3月17日	研究調査、学会発表
新見隆 教授 ／芸術文化学科	シンガポール、 フィリピン	2003年3月10日～ 2003年3月14日	国際交流基金主催「日本デザイン展」現地打合せ
田中栄作 教授 ／空間演出デザイン学科	フランス	2003年3月25日～ 2003年4月4日	研究資料取材の為

2003年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
池田良二 教授 ／油絵学科	韓国（釜山）	2003年4月15日～ 2003年4月17日	韓国現代美術の動向の調査、共同研究調査。
藤枝晃雄 教授 ／美学美術史研究室	アメリカ	2003年7月15日～ 2003年9月6日	ヤドー（Yaddo）からの招待による美術研究及び交流。
小池一子 教授 ／空間演出デザイン学科	フィンランド、 スウェーデン	2003年4月25日～ 2003年5月4日	ストックホルムの美術館 Liljevalchs で開催される The Optimists 展でのアーティストとのトークに招待されたため。アーティスト、ヨルク・ガイスマールの佐賀町エキシビットスペースでの作品を展示する。
新見隆 教授 ／芸術文化学科	アメリカ （ワシントン、 ニューヨーク）	2003年5月1日～ 2003年5月7日	ワシントン・サックラー・ギャラリーでの「イサム・ノグチと日本前衛陶芸」展オープニング出席、同展打合せ、他。
岡部あおみ 教授 ／芸術文化学科	イタリア	2003年6月10日～ 2003年6月17日	国際交流基金から国際展評価委員としてヴェネツィア・ビエンナーレに派遣。



研究活動と研究環境

栗屋容子 教授 ／一般教育研究室	ロシア、 スウェーデン	2003年7月15日～ 2003年7月31日	XXIII International Conference on Photonic, Electronic, and Atomic Collisions 及び International Symposium "Atomic Cluster Collisions: fission, fusion, electron, ion, and photon impact" に出席、討議を行う。
小竹信節 教授 ／空間演出デザイン学科	デンマーク、 ドイツ	2003年5月21日～ 2003年5月28日	舞台美術打合せのため
小石新八 教授 ／通信教育課程研究室	チェコ（プラハ）	2003年6月9日～ 2003年6月15日	プラハ・カドリエンナーレ 2003における学生部門の会場設営、開幕式への出席、国際的な舞台美術界の現状把握。
朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	韓国（ソウル）	2003年6月10日～ 2003年6月16日	展覧会の見学および特別調査
小松誠 教授 ／工芸工業デザイン学科	ノルウェー （オスロ）	2003年6月20日～ 2003年6月26日	オスロ国際陶芸シンポジウム（OICS2003）に参加するため。
椎名純子 教授 ／空間演出デザイン学科	チェコ（プラハ）	2003年6月9日～ 2003年6月15日	プラハ・カドリエンナーレ 2003における、学生部門の学生作品展示、参加指導。
山本唯博 教授 ／保健体育研究室	韓国	2003年8月3日～ 2003年8月7日	14 <sup>th</sup> International Symposium for Adapted Physical Activity における研究発表。
柳澤紀子 教授 ／油絵学科	イタリア、ドイツ	2003年8月5日～ 2003年8月12日	ベニスビエンナーレ見学、ドイツの現代建築、現代美術の視察。
立花直美 教授 ／建築学科	ルーマニア	2003年8月20日～ 2003年9月3日	東西文明交流地の特徴ある3つの地域の木造建築の教会と集落の見学・調査。
滝沢具幸 教授 ／日本画学科	ベルギー	2003年9月5日～ 2003年9月14日	ベルギー各所美術館見学及び絵画、作品研究、各都市・風景取材。

研究活動と研究環境

新見隆 教授 ／芸術文化学科	シンガポール	2003年8月22日～ 2003年8月27日	国際交流基金の委嘱による「現代美術・デザイン展」の、シンガポール美術館での開催のため。
那須勝哉 教授 ／日本画学科	フィンランド	2003年8月24日～ 2003年8月31日	北方の風土における位置の検証と併せて創作への取材を目的とする。
椎名純子 教授 ／空間演出デザイン学科	フランス、 オーストリア	2003年8月22日～ 2003年9月6日	ヨーロッパ・エコ・ミュゼ、エコハウス視察。
寺原芳彦 教授 ／工芸工業デザイン学科	アメリカ	2003年9月2日～ 2003年9月6日	米国ロスアンジェルス及び近郊に存在するケーススタディハウス（CSH）、特にチャールズ・イームズの作品を中心に建築、インテリア、家具の現地視察。
遠藤竜太 教授 ／油絵学科	ポーランド	2003年9月15日～ 2003年9月23日	クラクフ国際版画トリエンナーレのプログラムの一つである展覧会（Poland-Japan）のレセプション出席及びクラクフ美術アカデミーを訪問する。
小竹信節 教授 ／空間演出デザイン学科	ロシア	2003年9月15日～ 2003年9月23日	サンクト・ペテルブルグ建都300周年記念行事での舞台「冬物語」・ウィリアム・ガリンスキー演出の舞台装置・衣装デザイナー担当。
池田良二 教授 ／油絵学科	タイ	2003年10月1日～ 2003年10月5日	タイ シラバゴーン大学創立60周年記念2003インターナショナル・プリント・アンド・ドローイング式典参加（シラバゴーン大学アート・アンド・カルチャーセンター）。
小竹信節 教授 ／空間演出デザイン学科	フランス	2003年10月7日～ 2003年10月16日	舞台「冬物語」（W. シェイクスピア作）のパリ巡回公演の舞台装置・衣装デザイナー担当。
新見隆 教授 ／芸術文化学科	フィリピン （マニラ）	2003年11月25日～ 2003年11月28日	国際交流基金主催「現代日本デザイン展」開催のため。

研究活動と研究環境

立花直美 教授 ／建築学科	イタリア	2003年12月27日～ 2004年1月14日	中世都市の環境形成に関する研究のための予備調査。
寺山祐策 教授 ／視覚伝達デザイン学科	韓国	2004年1月8日～ 2004年1月10日	韓国現代美術館における「Art Book Art」展において講義。
中原俊三郎 教授 ／工芸工業デザイン学科	ドイツ	2004年3月21日～ 2004年3月27日	CeBIT2004(国際情報通信技術見本市)の視察。
森江健二 教授 ／工芸工業デザイン学科	ドイツ	2004年1月31日～ 2004年2月9日	・AUTO MOTOR und SPORT 誌主催の国際自動車デザインコンペ出展、同カーデザインフォーラム参加。 ・PFORZHEIM 大学主催の自動車デザイン発表展示会／フォーラム参加。
新見隆 教授 ／芸術文化学科	フランス (パリ)	2004年2月8日～ 2004年2月14日	箱根ラリック美術館開館準備のための打合せ、調査。
新見隆 教授 ／芸術文化学科	アメリカ (ニューヨーク)	2004年2月28日～ 2004年3月5日	イサム・ノグチ展開催のための打合せ、芸術文化学科学生とのミュージオロジー研究・調査。
関野吉晴 教授 ／一般教育研究室	北西ネパール、 チベット国境。	2004年3月4日～ 2004年3月30日	北西ネパール、チベット仏教圏での医療人類学的調査、診療所建設と医療ボランティア活動及びチベット仏教圏での被差別民のカースト社会と日本の被差別民との比較。
長尾重武 教授 ／建築学科	スペイン	2004年3月6日～ 2004年3月15日	サラマンカ大学にて、「日本の建築」について集中講義を行う。
田辺久美子教授 ／空間演出デザイン学科	アメリカ	2004年3月8日～ 2004年3月17日	2004年10月26日から日本橋で開催予定の、アメリカの仲間たち展打ち合わせ及び PENSACOLA MUSEUM (フロリダ) で開催中の展覧会 ” THE CUTTING EDGE” 会場で個展中の Susan SILLS の gallery talk の進行を務める。
斉藤國靖 教授	イギリス、	2004年3月9日～	16, 17 世紀を中心としたヨ

研究活動と研究環境

／油絵学科	フランス	2004年3月17日	ヨーロッパ油彩絵画のメデューム研究及び資料収集。
三浦均 助教授 ／映像学科	アメリカ	2004年3月12日～ 2004年3月18日	カリフォルニア大学サンタバーバラ校における、惑星科学研究会に出席。
藤枝晃雄 教授 ／美学美術史研究室	アメリカ	2004年3月22日～ 2004年3月31日	美術史の現状に関する調査

2004年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
佐久間保明 教授 ／一般教育研究室	ドイツ、スイス	2004年4月1日～ 2004年4月8日	ヨーロッパにおける絵本の調査と資料収集。
伊藤高弘 教授 ／保健体育研究室	フランス	2004年5月18日～ 2004年5月25日	FSG主催・第4回全国スポーツ会議(ANS)への参加、及び資料蒐集と研究情報交換。
横溝健志 教授 ／通信教育課程研究室	チュニジア、 イタリア	2004年3月29日～ 2004年4月11日	海外都市景観の取材。
田中秀穂 教授 ／工芸工業デザイン学科	韓国	2004年5月3日～ 2004年5月8日	百想記念館における宋繁樹氏との二人展の準備、及びオープニング出席のため。
及部克人 教授 ／視覚伝達デザイン学科	韓国	2004年4月29日～ 2004年5月2日	弘益大学主催の「メタ・デザイン・インターナショナル・フォーラム」に於いて、本学視覚伝達デザイン学科の教育について講演を行う。
朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	韓国	2004年4月28日～ 2004年5月7日	韓国・江原道洪川物傑里および慶尚北道慶尚南山の廃寺址の発掘指導。
今井良朗 教授 ／芸術文化学科	韓国	2004年5月28日～ 2004年5月31日	韓国釜山ウルサン大学で開催される基礎造形学会に出席するため。
戸田裕介 助教授 ／共通彫塑研究室	韓国	2004年8月8日～ 2004年9月12日	D j e r r a s s i R E S I D E N T A R T I S T S P R O G R A M参加。

研究活動と研究環境

			(現地滞在／彫刻作品制作のため)
栗屋容子 教授 ／一般教育研究室	リトアニア	2004年9月4日～ 2004年9月13日	国際学会「12th International Conferene on the Physics of Highly Charged Ions」に出席のため。
白石美雪 教授 ／一般教育研究室	フランス、ドイツ	2004年7月13日～ 2004年9月13日	新作オペラおよび新演出オペラの取材。
朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	ベトナム	2004年7月13日～ 2004年9月13日	ベトナムのチャンパ彫刻の調査、および文化財保護財団研究助成による実地調査(2004年12月～2005年1月)の下見と打ち合わせ。
立花直美 教授 ／建築学科	スウェーデン、 デンマーク、 ノルウェー、 フィンランド	2004年7月16日～ 2004年8月11日	北欧諸都市の見学。
関野吉晴 教授 ／一般教育研究室	モンゴル、ロシア	2004年7月8日～ 2004年9月15日	原日本人のやって来た主要3ルートのうちの北方ルート(シベリア～サハリン～北海道)を辿り、多様な日本人の身体的、文化的特徴を探る。
北澤洋子 教授 ／美学美術史研究室	ベルギー、 イタリア	2004年8月13日～ 2004年8月30日	初期ネーデルラント絵画及び同時代のイタリア絵画の作品調査・資料収集のため。
朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	韓国	2004年8月25日～ 2004年9月21日	2004年度科学研究費補助金による海外学術研究・調査(3年間)の初年度調査において研究代表者として参加。
寺原芳彦 教授 ／工芸工業デザイン学科	ノルウェー	2004年8月24日～ 2004年9月1日	ノルウェーのデザイナー、ピーター・オプスヴィック及びストック社製品のデザインについて現地調査。

森豪男 教授 ／空間演出デザイン学科	イタリア	2004年8月26日～ 2004年9月10日	イタリア各都市の美術研究。
クリストフ・シャルル 助教授 ／映像学科	フランス	2004年7月28日～ 2004年8月13日	オリビエ・メシアン「Messiaen au pays de la Meije」フェスティバルの見学、イエゴル・レズニコフ氏のコンサート見学とインタビュー、パリで行われる展覧会やプロジェクトの打ち合わせや作業。
小竹信節 教授 ／空間演出デザイン学科	フランス、 イタリア	2004年10月18日～ 2004年11月16日	イアン・カラミトル演出「オセロー」のフランス及びイタリア公演における美術監督として同行する。
小石新八 教授 ／通信教育課程研究室	北京、大連	2004年10月25日～ 2004年11月7日	中国戯曲学院の招聘による特別講義。山東省・大連市の史跡視察。
寺原芳彦 教授 ／工芸工業デザイン学科	ドイツ（ケルン）	2004年10月19日～ 2004年10月23日	ドイツ、ケルンにおけるオフィスファニチャーイベント、オルガテックへ招聘による視察。
関野吉晴 教授 ／一般教育研究室	ロシア	2004年10月22日～ 2004年11月14日	ロシア・サハ共和国に於いて、トナカイ遊牧をしている狩猟民の狩猟を調査することにより、他の型の狩猟民と比較研究する。
三浦均 助教授 ／映像学科	アメリカ （ニューヨーク）	2004年11月10日～ 2004年11月14日	アメリカ自然史博物館（AMNH, ニューヨーク市）にて「4次元デジタル宇宙プロジェクト」の成果報告およびプラネタリウム展示についての会議。
朴亨國 助教授 ／美学美術史研究室	ベトナム	2004年12月22日～ 2005年1月11日	財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の研究助成による「バイヨンの修復における美術史的調査」（3年間の初年度）の研究代表者としてベトナム地域に残るクメール遺跡・遺品の

研究活動と研究環境

			調査を行う。
井上尚司 助教授 ／デザイン情報学科	アメリカ	2005年1月5日～ 2005年1月14日	Consumer Electronics Show (www.cesweb.org) 視察と、コンピュータ／ネットワーク市場調査のため。
関野吉晴 教授 ／一般教育研究室	ロシア	2005年1月10日～ 2005年2月15日	数多くある日本人のやって来たルートのうち、北方ルートを辿り(シベリア～サハリン～北海道)、先住民の狩猟、漁労文化を調査するとともに、ミトコンドリア DNA の採取を行い、彼らの系統、日本人との関係を探る。
栗屋容子 教授 ／一般教育研究室	中国	2005年3月9日～ 2005年3月20日	①国際ワークショップ「Physics at EBIT and Advanced Research at Light Sources - PEARL 2005」に出席し、1セッションの座長をつとめる。 ② 上海の Fudan University を訪問。完成間近い装置 EBIT に関する討論と助言を行う。
伊藤真一 専任講師 / 工芸工業デザイン学科	ガーナ共和国	2005年2月26日～ 2005年3月17日	ココナッツ材を利用した家具の研究・制作。
新見隆 教授 ／芸術文化学科	アメリカ (ニューヨーク、ワシントン)	2005年2月25日～ 2005年3月14日	「イサム・ノグチと 1950年代の前衛展」開催のための打合わせ、調査。芸術文化学科学生との課外美術館研究旅行。
戸田裕介 助教授 ／共通彫塑研究室	フランス、ドイツ	2005年2月26日～ 2005年3月5日	フランス、ヴァロリス市での展覧会打ち合わせのため。
三浦均 助教授 ／映像学科	オーストラリア	2005年3月1日～ 2005年3月4日	Swinburne 大学 (メルボルン、オーストラリア) の Center for astrophysics and super computing (宇宙物理およびスーパーコンピューティングセンタ

			一)訪問。 現地研究員と技術・情報交換。共同研究4次元デジタル宇宙シアターの報告。
田辺久美子 教授 ／空間演出デザイン学科	アメリカ (ニューヨーク、ワシントン)	2005年3月10日～ 2005年3月16日	・2005年10月25日(火)～11月12日(土)に開催予定のVIRDIAN GALLERY (NEW YORK)での10回目個展及び同画廊でのパフォーマーとのコラボレーションについての打ち合わせ。 ・2004年開催のアメリカの仲間たち展(オンワードギャラリー日本橋)の報告を含めVIRDIAN GALLERYのARTISITSとチェルシーにある画廊主との討論会。
小石新八 教授 ／通信教育課程研究室	中国(上海、桂林)	2005年3月19日～ 2005年4月6日	日中共同研究の一環として調査旅行の作品展示開催のため、併せて、継続中の中国の都市、民居、劇場空間の調査。
玉蟲敏子 教授 ／美学美術史研究室	アメリカ(シカゴ、ニューヨーク)	2005年3月19日～ 2005年4月6日	・デ・ポール大学・シカゴ美術館・シカゴ大学共催シンポジウム ”Acquisition:Art and Ownership in Edo-Period Japan” に出席、発表のため。 ・シカゴ美術館、ニューヨークの古美術。
長谷川堯 教授 ／美学美術史研究室	イギリス (ロンドン)、 スウェーデン (ストックホルム)、 フランス(パリ)	2005年3月14日～ 2005年3月29日	両次大戦間における近代建築についてのヨーロッパ各国における調査
板屋緑 教授 ／映像学科	イタリア(ローマ)	2005年3月14日～ 2005年3月29日	ローマ近郊の山岳都市(カルカータ、スポレート、



研究活動と研究環境

			カプローラ、テルニ、オルビエート、ヴィテルボ)の調査及び撮影。
陣内利博 教授 ／視覚伝達デザイン学科	アメリカ (ニューヨーク)	2005年3月23日～ 2005年3月30日	アメリカ美術館・博物館における展示方法の調査研究。主にニューヨークの施設。国際交流基金ニューヨーク支部との打ち合わせ等。

2005年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
新正 卓 教授 ／映像学科	アメリカ (サンフランシスコ)	2005年4月29日～ 2005年5月9日	新正卓写真展開催 「SAKURA・ARAMASA」 05.04.20～05.05.28 講演及びギャラリートーク (05.05.04 & 05.05.04 & 05&06)
池田良二 教授 ／油絵学科	アメリカ (ロサンゼルス)	2005年3月29日～ 2005年4月4日	アメリカにおける Art Colonyでの情報交換及び調査研究
池田良二 教授 ／油絵学科	ベルギー (ブリュッセル)	2005年6月4日～ 2005年6月10日	ベルギー国際版画展、招待出品式典への出席
大平智弘 教授 ／デザイン情報学科	韓国(釜山)	2005年6月1日～ 2005年6月3日	第六回国際デザイン学術大会での講演
千々岩英彰 教授 ／一般教育研究室	フランス(パリ)	2005年6月8日～ 2005年6月16日	第3回景観色彩(定点)調査のため
寺原芳彦 教授 ／工芸工業デザイン学科	韓国(ソウル)	2005年6月28日～ 2005年7月1日	韓国国民大学の招聘により、室内デザイン学科、産業デザイン学科対象に特別講義および共同授業協議を行う。
池田良二 教授 ／油絵学科	フィンランド	2005年7月6日～ 2005年7月12日	第11回フィンランド国際版画トリエンナーレ展招待出品・式典への出席 (Jyväskylä美術館)
山本唯博 教授 ／保健体育研究室	セルビア (ベオグラード)	2005年7月13日～ 2005年7月18日	The 10th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS)への

研究活動と研究環境

			参加と研究発表
栗屋容子 教授 ／一般教育研究室	ベルギー (ブリュッセル)	2005年7月15日～ 2005年8月4日	“XXIV International Conference on Photonic, Electronic, and Atomic Collisions” (開催地: Rosario, Argentina, 開催時:7月20-26日)及び“13th International Symposium on Polarization and Correlation in Electronic and Atomic Collisions”と“International Symposium on (e,2e), Double Photoionization and Related Topics”の合同国際シンポジウム(開催地: Buenos Aires, Argentina, 開催時:7月28-30日)に出席、討議を行う。
関野吉晴 教授 ／一般教育研究室	ロシア	2005年7月8日～ 2005年8月20日	原日本人のやって来た主要3ルートのうち北方ルート(シベリア～サハリン～北海道)を辿り、多様な日本人の身体的・文化的特徴を探る。今回はその最終ステージ(サハリン～北海道)。
立花直美 教授 ／建築学科	ドイツ、 ハンガリー、 チェコ、フランス、 オーストリア	2005年7月15日～ 2005年8月11日	現代都市再生の現地の確認
朴 亨國 助教授 ／美学美術史研究室	ベルギー (ブリュッセル)	2005年8月3日～ 2005年8月7日	造形学コース「造形学演習」の一部として行っている古美術研修旅行の引率
馬杉宗夫 教授 ／美学美術史研究室	ベルギー、 フランス	2005年8月3日～ 2005年8月24日	モザン美術(ベルギー、ロマネスク)の調査・研究
朴 亨國 助教授 ／美学美術史研究室	韓国 (忠清道、全羅道)	2005年8月9日～ 2005年9月6日	2005年度科学研究費補助金「韓国の浮彫形態の仏教集合尊像に関する総合調査」の研究代表者として調査に参加

研究活動と研究環境

新見 隆 教授 ／芸術文化学科	オーストリア、 フランス (ウィーン、パリ)	2005年8月23日～ 2005年9月1日	ウィーン、パリにおける美術館運営の現状調査。「ウィーン工房展」企画準備交渉。芸術文化学科学生とのアート・マネジメント研修旅行。
佐藤淳一 助教授 ／デザイン情報学科	ドイツ (ハンブルグ、ライプツィヒ、ベルリン)	2005年8月23日～ 2005年9月3日	内陸水運関係施設の調査、撮影。
白石 学 専任講師 ／デザイン情報学科	韓国 (釜山)	2005年9月12日～ 2005年9月14日	韓国東西大学校デジタルデザイン学部マルチメディア・デザイン学科の卒業作品展示会を視察するため。
池田良二 教授 ／油絵学科	中国 (北京)	2005年9月19日～ 2005年9月25日	中国北京国際美術ビエンナーレ展 (BIAB2005) 出品、オープニング式典、シンポジウムへの出席
小竹信節 教授 ／空間演出デザイン学科	ノルウェー (オスロ、 ベルゲン)、 フランス (パリ)	2005年9月24日～ 2005年10月16日	W.シェイクスピア作「トロイラスとクレシダ」ノルウェー国立劇場等での公演における舞台美術担当者として同行。
川口直次 教授 ／空間演出デザイン学科	マカオ	2005年10月1日～ 2005年10月10日	マカオ特別行政府文化局主催のマカオ国際音楽祭にオペラ”蝶々夫人”参加。当作品の美術監督を担当のため。
戸田裕介 教授 ／共通彫塑研究室	中国 (北京市朝陽区)	2005年10月6日～ 2005年10月9日	北京大山子 798 芸術工場訪問のため。
朴 亨國 助教授 ／美学美術史研究室	韓国 (忠清道)	2005年10月26日～ 2005年11月3日	調査現場視察および各博物館見学
長尾重武 教授 ／建築学科	フランス、イタリア (パリ、ローマ)	2005年10月29日～ 2005年11月6日	Giovanni Battista Piranesi 研究
関野吉晴 教授 ／一般教育研究室	ネパール、インド、ブータン	2005年10月24日～ 2005年11月20日	「新グレートジャーニー、日本人の来た道」プロジェクトの南方ルート編 (ヒマラヤの南～インドシナ～中国～朝鮮半島～日本) の第一ステージとして、ネパール～インド東北部～ブータ

研究活動と研究環境

			ンの照葉樹林文化圏の比較文化的調査、遺伝学的調査を行う。
朝倉重治 教授 ／基礎デザイン学科	スイス (ジュネーブ)	2005年10月24日～ 2005年10月29日	スイス、ジュネーブにあるCERN（欧州素粒子研究所）の実験サイト訪問
板屋 緑 教授 ／映像学科	イタリア（ローマ）	2005年10月25日～ 2005年11月6日	調査研究のため
三浦耐子 教授 ／日本画学科	イタリア（ローマ）	2005年11月6日～ 2005年11月13日	彩色文化財の材料と技法に関する研究
田辺久美子 教授 ／空間演出デザイン学科	アメリカ (ニューヨーク)	2005年10月21日～ 2005年11月16日	VIRIDIAN GALLERY (NEW YORK) での第10回個展、及びBrooklyn Children's seminar での立体造形指導
今井良朗 教授 ／芸術文化学科	韓国（ソウル）	2005年11月13日～ 2005年11月15日	日本・韓国・ドイツ学生絵本作品展の韓国でのオープニング・セレモニーに出席
長澤忠徳 教授 ／デザイン情報学科	マレーシア (KUCHING)	2005年12月3日～ 2005年12月8日	マレーシア・サラワク大学主催 ICACA・2005 (International Conference on Applied and Creative Arts・2005) に招聘出席（基調講演）のため。
白石 学 専任講師 ／デザイン情報学科	韓国	2005年12月15日～ 2005年12月19日	韓国（釜山）東西大学校修士論文外部審査官として
井上尚司 助教授 ／デザイン情報学科	アメリカ	2006年1月4日～ 2006年1月12日	Consumer Electronics Show (www.cesweb.org) 視察と、コンピュータ／ネットワーク市場調査のため。
寺山祐策 教授 ／視覚伝達デザイン学科	中国（広東・仙頭）	2005年12月15日～ 2005年12月20日	中国汕頭大学（Shantou University）、長江美術設計学院（Cheung Kong School of Design）主催の「文化産業デザイン教育の国際会議」に出席のため
黒川弘毅 教授 ／彫刻学科	韓国（ソウル）	2005年12月25日～ 2005年12月31日	1949年から1953年まで本学彫刻学科に在学した韓国人彫刻家権鎮圭（グオンジンキュ）に関する調査

研究活動と研究環境

新見 隆 教授 ／芸術文化学科	アメリカ (ニューヨーク)	2006年2月26日～ 2006年3月4日	イサム・ノグチ財団のための学芸調査。 「ノグチと50年代のモダン・プリミティブ」展準備。 芸術文化学科学生との美術館調査研修。
関野吉晴 教授 ／一般教育研究室	インド、 ミャンマー	2006年2月24日～ 2006年4月14日	「新グレートジャーニー、日本人の来た道」プロジェクトの南方ルート編（ヒマラヤの南～インドシナ～中国～朝鮮半島～日本）の第2ステージとして、インド東北部～ミャンマーの照葉樹林文化圏の比較文化的調査、遺伝学的調査を行う。
白石 学 専任講師 ／デザイン情報学科	韓国（釜山）	2006年3月10日～ 2006年3月17日	韓国（釜山）・東西大学校での特別講義とWork Shopを行うため
馬杉宗夫 教授 ／美学美術史研究室	フランス（パリ、 トゥルーズ）	2006年3月20日～ 2006年4月3日	人像円柱の起源をたずねる。
小石新八 教授 ／通信教育課程研究室	中国（北京、上海）	2006年3月21日～ 2006年4月1日	北京、中央戯劇学院 特別講義 上海、上海戯劇学院 特別講義

2006年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
長谷川堯 教授 ／造形文化研究室	イギリス、 スペイン (ロンドン、 バルセロナ)	2006年4月2日～ 2006年4月11日	19世紀末から世紀初頭における、英国のアーツ・アンド・クラフツと、カタロニアのモデルニスモの間の影響関係の調査
池田良治 教授 ／油絵学科	韓国（ソウル）	2006年5月12日～ 2006年5月14日	韓国Maga美術館主催「韓、日現代版画」展出品、式典出席のため
小井土満 教授 ／共通デザイン研究室	中国（上海）	2006年5月23日～ 2006年5月30日	上海アートフェアに出品・参加の為
田中秀穂 教授 ／工芸工業デザイン学科	アメリカ (ニューヨーク)	2006年5月23日～ 2006年5月30日	展示会「Sphere of Textile Sensation Hideho Tanaka

			& his legacy」のオープニング及び SOFA 出品レセプションに参加のため
廖 赤陽 教授 ／教養文化研究室	中国（広州）	2006年4月21日～ 2006年4月24日	中国全国日本語スピーチコンテスト審査委員のため。
三浦 均 助教授 ／映像学科	韓国（ソウル）	2006年5月16日～ 2006年5月20日	PCST (Public Communication of Science and Technology) に出席のため
大坪圭輔 教授 ／教職・学芸員研究室	中華民国（台北）	2006年5月31日～ 2006年6月4日	中華民国 第37回 世界児童画展 審査（招聘）
寺原芳彦 教授 ／工芸工業デザイン学科	中国（北京）	2006年6月7日～ 2006年6月11日	2006年度中国清華大学韓国国民大学との合同授業に関する会議出席及び講義
廖 赤陽 教授 ／教養文化研究室	韓国（釜山）	2006年6月8日～ 2006年6月12日	韓国中国史学会への出席
関野吉晴 教授 ／教養文化研究室	中国（青海省、チベット）	2006年7月15日～ 2006年9月3日	初期日本人がやって来た道のりのうち、ヒマラヤ山麓から、スンドラランド（インドシナ）を経て、中国、朝鮮半島、日本へやって来た経路を探查する。
山本唯博 教授 ／身体運動文化研究室	スイス（ローザンヌ）	2006年7月4日～ 2006年7月10日	The 11th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS) への参加と研究発表
栗屋容子 教授 ／教養文化研究室	イギリス（ベルファースト）	2006年8月21日～ 2006年9月3日	13th International Conference on the Physics of Highly Charged Ions に出席
十時啓悦 教授 ／工芸工業デザイン学科	カナダ（バンクーバー、ヴィクトリア他）	2006年7月11日～ 2006年7月21日	ヴィクトリア美術館ペイントイン出品、ブリティッシュコロンビア大学、他にて漆芸紹介。
朴 亨國 助教授 ／造形文化研究室	韓国（大邱、慶州）	2006年7月14日～ 2006年7月27日	2006年度科学研究費補助金（基礎研究(B)）「韓国の浮彫形態の仏教集合尊像に関する総合研究」の研究代表者として、現地調査を行うため。

研究活動と研究環境

朴 亨國 助教授 ／造形文化研究室	韓国 (北京、山東省)	2006年8月7日～ 2006年8月23日	2006年度科学研究費補助金 「中国の八部衆像に関する 調査・研究」(研究代表者： 大東文化大学 水野さや) の研究分担者として、現地 調査を行うため。
長沢秀之 教授 ／油絵学科	イタリア(シエナ、 ヴォルテッラ、 フィレンツェ他)	2006年8月17日～ 2006年9月1日	前回のラツィオ・ウンブリア のエトルリア遺跡(チェル ヴェテリ、タルキニアなど) に引き続き、今回はト スカーナの遺跡や美術館を 訪ね、ネクロポリス(死者 の町)などに見られる”謎” の民族の生活を探る。
朴 亨國 助教授 ／造形文化研究室	タイ、ラオス	2006年8月31日～ 2006年9月14日	東京大学東洋文化研究所の 研究員として、研究所依頼 「東南アジア国立美術館、 博物館の実態調査」の責任 者として、現地調査を行う ため。
千々岩英彰 教授 ／教養文化研究室	デンマーク (コペンハーゲン)	2006年9月18日～ 2006年9月24日	デンマークのデザイン研修 旅行に参加し、色彩計画の 実際に学ぶため。
山本唯博 教授 ／身体運動文化研究室	韓国(ソウル)	2006年7月20日～ 2006年7月22日	韓国梨花女子大学校体育科 学大学での特別講義。
椎名純子 教授 ／空間演出デザイン学科	フランス(パリ)	2006年8月23日～ 2006年9月3日	フランス・シャンパーニュ 地方、エコ・ミュゼ実態調 査。
田中秀穂 教授 ／工芸工業デザイン学科	韓国 (釜山、ソウル)	2006年9月15日～ 2006年9月19日	プサンビエンナーレレセプ ション出席及び Korea-Japan Fiber Art Today 作品出品及びレセ プション出席。
池田良二 教授 ／油絵学科	韓国(釜山)	2006年9月15日～ 2006年9月20日	2006年釜山ビエンナーレ展 招待オープニング式典への 出席。
戸田裕介 教授 ／共通彫塑研究室	インド (グワリオール 他)	2006年11月12日～ 2006年12月10日	インド、グワリオール市で 開催される国際彫刻シンポ ジウム参加(招聘)のため。

研究活動と研究環境

小石新八 教授 ／通信教育課程研究室	中国（上海）	2006年10月12日～ 2006年10月15日	上海戯劇学院における学長 会議及びシンポジウムに学 長代理として参加。
田中秀穂 教授 ／工芸工業デザイン学科	中国 （Yunnan、杭州）	2006年10月21日～ 2006年10月29日	Yunnan Hanrongxuan Culture and Art Museumでの展覧会作品出 品・レセプション出席。中 国美術学院講義のため。
関野吉晴 教授 ／教養文化研究室	中国（雲南省）	2006年10月25日～ 2006年11月11日	初期日本人のやって来た道 を探る。（南ルートのうち雲 南省）の照葉樹林文化圏の 調査。
廖 赤陽 教授 ／教養文化研究室	台湾（台北）	2006年10月28日～ 2006年11月3日	Hakka and Local Societies in Global perspective: The First International Conference on Hakka Studies in Taiwan 国際シ ンポジウムの出席と発表。
小林昭世 教授 ／基礎デザイン学科	台湾（台北）	2006年10月29日～ 2006年11月2日	亜東技術学院（Oriental Institute of Technology） における会議’Cultural Creativity’における講義 とワークショップ。
井上尚司 助教授 ／デザイン情報学科	アメリカ	2007年1月4日～ 2007年1月12日	Consumer Electronics Show （www.cesweb.org.）視察と、 コンピュータ／ネットワー ク市場調査のため。
今井良朗 教授 ／芸術文化学科	韓国（ソウル）	2006年11月11日～ 2006年11月15日	日韓合同ワークショップ 2006出席のため。
鈴木民保 教授 ／芸術文化学科	韓国（ソウル）	2006年11月11日～ 2006年11月15日	日韓合同ワークショップ 2006出席のため。
米徳信一 助教授 ／芸術文化学科	韓国（ソウル）	2006年11月11日～ 2006年11月15日	日韓合同ワークショップ 2006出席のため。
白石 学 専任講師 ／デザイン情報学科	韓国（釜山）	2006年10月25日～ 2006年11月2日	2006年本学共同研究「日中 台韓の色彩認知に関する研 究」における、韓国の美術・ デザイン系の学生に対する 色彩調査。
白石 学 専任講師 ／デザイン情報学科	韓国（ソウル）	2006年12月7日～ 2006年12月10日	ADAA（Asia Digital Art and Design Association）の学



研究活動と研究環境

			術論文発表大会「2006 Asia Digital Art and Design Forum in Seoul ~Design±Art」で行われるWorkShopの指導講師として。2006年本学共同研究「日中台韓の色彩認知に関する研究」における、韓国的美術・デザイン系の学生に対する色彩調査。
朴 亨國 助教授 ／造形文化研究室	韓国（ソウル）	2006年12月8日～ 2006年12月10日	韓国仏教曹溪宗及び文化財庁主催「第1回韓国の寺刹文化財シンポジウム」における「韓国乾漆仏像の光学的調査研究」に対するコメンテーターとして参加するため。
関野吉晴 教授 ／教養文化研究室	中国、インド	2006年12月18日～ 2007年1月25日	ヒマラヤ山麓～中国南部～インドシナ～中国海岸部～朝鮮半島という照葉樹林帯を通過してやって来た初期日本人の道を辿り、日本人及び日本文化の源流を探る。
白石 学 専任講師 ／デザイン情報学科	韓国（ソウル）	2006年12月19日～ 2006年12月23日	韓国（釜山）東西大学校博士論文外部審査官として。
朴 亨國 助教授 ／造形文化研究室	中国 （北京、重慶他）	2006年12月22日～ 2007年1月7日	四川省の仏教遺跡の調査。
関野吉晴 教授 ／教養文化研究室	中国、ラオス	2007年3月1日～ 2007年4月1日	南方（ヒマラヤ山麓～インドシナ）から日本人のやって来たルートを追跡し、初期日本人の文化的・遺伝的特異性を探る。
篠原規行 助教授 ／映像学科	中国（上海）	2006年12月21日～ 2006年12月27日	上海戯劇学院での講義のため。
脇谷 徹 教授 ／共通彫塑研究室	台湾（台北）	2007年1月24日～ 2007年1月28日	台北市・国立故宮博物院にて開催される「大観－北宋書画特展」を見学するため。
新見 隆 教授 ／芸術文化学科	アメリカ （ニューヨーク）	2007年2月4日～ 2007年2月11日	ワシントン、J・コーネル・アーカイヴ、ニューヨーク、

研究活動と研究環境

			ノイエ・ギャラリー・コレクションの研究調査。芸文学生のとミュゼオロジー研修。
布施 茂 教授 ／建築学科	ポルトガル、 スペイン（ポルト、 マドリッド）	2007年1月2日～ 2007年1月13日	ポルトガル・スペイン現代建築の視察。
板東孝明 教授 ／基礎デザイン学科	インドネシア （ジョグジャカルタ）	2007年1月29日～ 2007年2月2日	International Bamboo Palm Summit 出席及び Bamboo Palm House Model Expo にてドーム設営のため。（インドネシア、ジョグジャカルタ）
遠藤竜太 教授 ／油絵学科	カナダ （エドモントン）	2007年2月7日～ 2007年2月14日	アルバータ大学、F A B ギャラリーでの”centrifugal”展に出品していて、そのオープニングセレモニーに出席するため。
玉蟲敏子 教授 ／造形文化研究室	アメリカ （ワシントン、 ボストン）	2007年3月9日～ 2007年3月18日	科学研究費補助金基盤研究（B）による江戸狩野家資料の調査、分担箇所の画派作品の近年における流出状況の調査。
伊藤真一 専任講師 ／工芸工業デザイン学科	フィリピン （セブ島、マニラ）	2007年2月25日～ 2007年3月4日	セブおよびマニラで行われる国際家具見本市視察ならびに家具工場視察。
篠原規行 助教授 ／映像学科	中国（上海）	2007年3月18日～ 2007年3月30日	上海戯劇学院主催による「劇場空間の基点を探る」展覧会の設営、運営、講演を行うため。
小石新八 教授 ／通信教育課程研究室	中国（上海）	2007年3月18日～ 2007年3月30日	上海戯劇学院主催による「劇場空間の基点を探る」展覧会の設営、運営、講演を行うため。
馬杉宗夫 教授 ／造形文化研究室	イタリア（パレルモ、ナポリ、バルレッタ、ローマ）	2007年3月18日～ 2007年4月1日	南イタリア・ロマネスク美術とノルマン王国との関係調査。
池田良二 教授 ／油絵学科	アメリカ （ロサンゼルス）	2007年3月22日～ 2007年3月28日	池田良二” Warehouse Time” 展オープニング式典

研究活動と研究環境

			出席。(SARAH LEE ART gallery (Santa Monica) 3/24～4/28)
小林昭世 教授 ／基礎デザイン学科	チェコ (プラハ)、 スイス (バーゼル)	2007年3月20日～ 2007年3月30日	20世紀初頭の構成主義・表現主義のデザイン・建築資料収集。
脇谷 徹 教授 ／共通彫塑研究室	台湾 (台北)	2007年3月20日～ 2007年3月23日	台北市国立故宫博物院にて開催されている「大観－北宋書画特展 (B期)」を見学するため。
寺原芳彦 教授 ／工芸工業デザイン学科	中国 (北京)	2007年3月24日～ 2007年3月27日	北京、清華大学において、3大学による産学協同授業の講評を行う。中国清華大学、韓国国民大学、本学。
椎名純子 教授 ／空間演出デザイン学科	中国 (北京)	2007年3月24日～ 2007年3月27日	北京、清華大学において、3大学による産学協同授業の講評を行う。中国清華大学、韓国国民大学、本学。
今井良朗 教授 ／芸術文化学科	韓国 (ソウル)	2007年3月29日～ 2007年4月1日	韓国ネバーランド絵本美術館での講演と、2007年度日韓交流授業の打ち合わせ、準備のため。

<資料4> 2002年度から2006年度までの海外研修者 (助手)

海外研修／助手

2002年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
丹羽陽太郎 助手 ／共通彫塑研究室	ドイツ、 オーストリア、 スロバキア、 イタリア	2002年8月5日～ 2002年9月2日	ドイツ、イタリアにおける美術鑄物の事情を視察。その他、中欧諸国の各時代の美術を概観する。
吉岡滋人 助手 ／共通デザイン研究室	ドイツ、チェコ、 ハンガリー、 ポーランド	2003年3月21日～ 2003年4月25日	近年、中欧・東欧に関わりのある作家や作品に関心を持つことが多く、その背景にある歴史や文化に触れる機会を持つ事を目的として、またドイツには現代美術の作品見学を目的として研修を計画。

研究活動と研究環境

山田佳一朝 助手 ／工芸工業デザイン学科	ドイツ、イタリア、 フランス、 イギリス	2003年3月30日～ 2003年4月28日	ヨーロッパの優れた建築、インテリア、家具を見学し、今後のデザイン活動に役立てることを目的とする。
福田寿寛 助手 ／空間演出デザイン学科	スペイン	2003年3月6日～ 2003年3月13日	劇場と建築様式の調査と視察。
水落史子 助手 ／工芸工業デザイン学科	スウェーデン、 デンマーク	2003年3月7日～ 2003年3月19日	北欧のデザインを見聞すると共に日本との交通システムの違いについて知る。
春日井由美 助手 ／工芸工業デザイン学科	ドイツ、フランス	2003年3月24日～ 2003年4月6日	ヨーロッパにおける染織及び美術品の調査・研究。
酒井祐二 助手 ／日本画学科	アメリカ	2003年3月25日～ 2003年4月23日	chelsea,williamsburg,soh オルタナティブスペース等ニューヨークを中心にアメリカのアートシーンの調査研究。
森須磨子 助手 ／芸術文化学科	ブータン	2003年3月31日～ 2003年4月18日	ブータンの文化保護政策を視察・体感し、文化の有り様について日本と比較する。
瀧本佳子 助手 ／芸術文化学科	スウェーデン、 フィンランド、 デンマーク、 ドイツ	2003年3月29日～ 2003年5月5日	北欧における生涯学習の現状についての調査。ドイツの現代美術、デザイン視察。
中村恵夏 助手 ／基礎デザイン学科	ドイツ、スペイン、 イタリア、 ギリシア、トルコ	2003年3月28日～ 2003年5月13日	その地域における生活文化の違いの研究。主に、住空間、食文化を軸に調査する。
八重樫文 助手 ／デザイン情報学科	香港、台湾、韓国	2003年3月28日～ 2003年4月3日	アジア主要都市部の公共的なメディア（特にその画像表現に注目して）の調査と、韓国のデジタル教育現場の視察。

2003年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
沖知江子 助手 ／工芸工業デザイン学科	フィンランド、 スウェーデン、 デンマーク	2003年7月30日～ 2003年8月20日	北欧の風土とデザインに関連性を、主にガラス作品について個人作家やプロダクト製品の制作現場を訪れ調査する。
畑野奈々 助手 ／空間演出デザイン学科	フランス	2003年8月4日～ 2003年9月5日	パリを中心にした市場調査、ブティックの店舗設計、空間

研究活動と研究環境

			の使い方や見せ方などの調査及びファッションの歴史等の研究。
肴倉睦子 助手 ／基礎デザイン学科	フランス、ドイツ、 スイス	2003年7月28日～ 2003年8月27日	近代デザイン史への造詣を深めるための、歴史的資料、建築の視察。
横田久美子 助手 ／デザイン情報学科	ギリシャ共和国	2003年7月29日～ 2003年8月23日	西洋文化の根源をギリシャ各地の遺跡を通して探求する。
野口文健 助手 ／共通絵画研究室	イタリア、スペイン、 スペイン、 デンマーク	2004年1月5日～ 2004年2月5日	ヨーロッパ各地の美術館を巡り、その風土に育まれた精神と、その精神の結実ともいべき芸術作品を視察することで、今後の作家活動に役立てる。
飯島浩二 助手 ／共通彫塑研究室	タイ(バンコク)	2004年1月15日～ 2004年2月14日	タイにおける現代美術の動向の視察及び文化研修。
嶋田喜昭 助手 ／彫刻学科	タンザニア、 ケニア、エチオピア	2004年3月30日～ 2004年4月28日	アフリカの彫刻及びモチーフとして捉えられる動物の考察。
吉野郁夫 助手 ／工芸工業デザイン学科	アメリカ	2004年3月30日～ 2004年4月30日	アメリカ北部における木工芸の調査と視察。スタジオファニチャーの動向を知る。
宮下晃久 助手 ／映像学科	ドイツ、オランダ	2004年3月31日～ 2004年4月25日	ヨーロッパにおける現代写真の動向を探る。また、各地での撮影を行う。
境澤邦泰 助手 ／油絵学科	ギリシャ、イタリア	2004年3月30日～ 2004年5月1日	美術作品研究。
上村晴彦 助手 ／空間演出デザイン学科	イギリス、オランダ、 タイ、アメリカ、 キューバ、中国、 チュニジア、 ベトナム	2004年3月31日～ 2004年5月10日	都市に生きる衣服(情報)収集。

2004年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
永井佳奈子 助手 ／工芸工業デザイン学科	チェコ共和国、 デンマーク	2004年7月17日～ 2004年8月2日	東欧・北欧の工芸・デザイン・美術の視察・研究。
鳥井真由子 助手	ドイツ、	2004年7月29日～	ドイツの現代建築、デザイ

／デザイン情報学科	チェコ共和国	2004年8月28日	ンの視察及びチェコのアニメーションの動向を探る。
落合佐和子 助手 ／芸術文化学科	デンマーク、 ドイツ、チェコ、 オーストリア	2005年3月28日～ 2005年4月20日	各国の美術館における美術と絵本、美術を子どもに紹介するための本の調査。市販されている絵本の中の美術の扱いに関する調査のため。
清水健太郎 助手 ／通信教育課程研究室	ペルー、ブラジル、 アメリカ	2005年3月25日～ 2005年4月5日	「自然界が創り出した造形」、「古代の人類により創り出した造形」。これらを直接体感、実感することで、今後の自主制作に幅と深み、そして新しい表現への手がかりを探る。
関根昭太郎 助手 ／工芸工業デザイン学科	イタリア	2005年3月31日～ 2005年4月30日	イタリアにおける絵付け陶器の調査と視察。イタリア美術の歴史と現代の動向を知る。
小川明日香 助手 ／映像学科	南アフリカ共和国、モロッコ、 チュニジア、 スペイン、 イタリア	2005年3月19日～ 2005年4月28日	映像素材、撮影、遺跡・美術館視察。
井上智史 助手 ／通信教育課程研究室	スイス	2005年3月20日～ 2005年3月30日	・「バーゼルスクールオブデザイン」(タイポグラフィのカリキュラムなど) 見学 ・スイスの美術館・建築などの見学。
木島孝文 助手 ／日本画学科	スペイン、 イタリア	2005年3月31日～ 2005年4月27日	旧石器時代の洞窟壁画、またゴシック、ルネサンス期におけるフレスコ技法、テンペラ技法による壁画芸術の研究。西欧文化圏における価値観、美意識の考察。これらを通じ、今後の自主制作の質の向上を図る。
加藤賢策 助手 ／視覚伝達デザイン学科	スペイン、 オランダ、ドイツ	2005年3月31日～ 2005年4月24日	ヨーロッパにおける、メディアアートおよびプライベートメディア／ソーシャル

研究活動と研究環境

			メディアの状況について視察する。
根間太作 助手 ／建築学科	中東、 バルカン諸国、 東欧諸国	2005年3月31日～ 2005年5月30日	中東アジア～ヨーロッパ (EU 非加盟国および EU 加盟申請国を中心) におけるグラフィックおよび建築デザインの歴史の動向を探る。
鈴木興 助手 ／油絵学科	ドイツ	2005年3月31日～ 2005年4月29日	ドイツにおける現代美術の視察。

2005年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
窪田美樹 助手	イタリア、 マルタ共和国	2005年7月14日～ 2005年8月12日	遺跡及び美術館等見学
石塚英樹 助手	ドイツ、 オーストリア	2005年7月25日～ 2005年8月8日	見聞を広め、今後のデザイン活動・研究につなげるための資料収集。
福田弘一 助手	フィンランド、 オランダ、ドイツ、 オーストリア、 スイス、フランス、 イタリア、トルコ、 アイスランド	2006年3月26日～ 2006年4月23日	ヨーロッパ各地の都市生活の音環境調査
中野希大 助手	アイスランド、 デンマーク、 ドイツ、オランダ、 ベルギー、 フランス	2006年3月19日～ 2006年4月17日	自然観測と撮影、また映像や写真を中心とする研究機関、美術大学、美術館やギャラリー巡り。
陶久恵 助手	ヨーロッパ（主に フランス、 オランダ、 オーストリア）	2006年3月31日～ 2006年4月28日	ヨーロッパ（主にフランス、オランダ、オーストリア）の文化に触れる。美術館、ギャラリー見学など。
内田貴志 助手	ヨーロッパ （主にフランス）	2006年3月25日～ 2006年6月24日	フランスを中心にヨーロッパ各地の建築を視察するため。

2006年度

海外研修者／学科名	研修先	期間	内容
鄭継深 助手	アメリカ合衆国	2006年7月24日～ 2006年8月22日	スタジオ・グラス運動発祥の地、アメリカにおけるコンテンポラリーグラス・アートの現在を探る。
村田恒 助手	フィンランド、 ドイツ、 オーストリア	2006年8月6日～ 2006年9月3日	ヨーロッパの美術館視察と、オーストリア・リンツで行われるArs Electronica視察の為
三樹祐子 助手	フィンランド、 スウェーデン、 デンマーク	2006年10月24日～ 2006年11月5日	北欧の風土とデザインの関連性を、主にテキスタイル作品について制作現場を訪れ見学調査する。
相野谷威雄 助手	中国、イタリア、 ドイツ、イギリス	2007年3月17日～ 2007年4月1日	ヨーロッパの美術館視察と、オーストリア・リンツで行われるArs Electronica視察の為
吉田肇子 助手	チリ、ブラジル、 アルゼンチン、 ペルー他	2007年3月18日～ 2007年5月10日	非欧米化諸国におけるデザインの視察。コミュニケーションに関わるデザインについて考察。南米諸国特有の伝統的なデザインと、遺跡に残る古代文字を中心に、その表意性とその意味を考察する。
下田圭一 助手	イタリア他	2007年3月30日～ 2007年4月27日	ヨーロッパのデザイン、及び地域文化の視察。
村山之都 助手	フランス、 イタリア	2007年3月31日～ 2007年4月28日	ヨーロッパ中世～現代に至る歴史的美術遺産の現地調査。特に絵画における技法・テーマについての考察。
奥山直人 助手	ポルトガル、 スペイン、 アイルランド	2007年3月31日～ 2007年4月28日	多くの芸術家を輩出したポルトガル、スペイン、アイルランドの風土、文化、芸術を広く見聞する。その過程で、各地に存在する教育機関及び私設の版画工房を訪れ、当地の現代版画の動向を知る。
馬口千明 助手	イギリス、フラン ス、イタリア、	2007年3月31日～ 2007年4月28日	ヨーロッパのギフトやショップ等のデザイン調査、美術



## 研究活動と研究環境

	ギリシャ		館、ギャラリー巡り。
山崎雅子 助手	フランス（パリ）、 イタリア（ミラ ノ）、イギリス（ロ ンドン）	2007年3月20日～ 2007年4月18日	ヨーロッパにおけるホスピ タルアートの現地調査と情 報収集。美術館巡り。

<資料 5> 2002 年度から 2006 年度までの共同研究の概要

※表記がないのは本学専任教員、他大学等の研究者の肩書きは当時のもの。

(助)は助手、(講)は非常勤講師、(特)は特別講師、(教)は教務補助員、(職)は事務職員、(嘱)は嘱託を表す。

研究代表者	研究分担者	研究課題	年度
及部克人	池田良二、新正卓、柏木博、小久保明浩、朴亨國／2003 年度より高島直之(講)、尹成濟(助)	白牛会(在東京美術協会)に集う朝鮮からの留学生たち～帝国美術学校の歩みと東アジア美術の動向	2002 年度～2003 年度
寺山祐策	新島実、小林昭世、加藤賢策(助)、本庄美千代(職)	エル・リッツキーを軸としたモダンタイポグラフィデザイン研究	2002 年度～2003 年度
島崎 信	寺原芳彦、朝山隆(講)、足立正(講)、山田佳一朗(助)、野呂影勇(早稲田大学人間科学部・理工学総合研究センター教授)、寺岡拓(早稲田大学理工学総合研究センター客員研究助手)、織田憲嗣(北海道東海大学芸術工学部デザイン学科教授)	本学美術資料図書館館蔵の「近代椅子デザインコレクション」の充実した系統的収集計画の研究・立案と、収集品に関する技能研究及び関連資料の収集とそのインデックス化	2002 年度
川口直次	小石新八、大抜久敏(講)、浦川明郎(講)、福田寿寛(助)、多田ヒロシ(舞台美術家)、黒田浩一郎(フリーカメラマン)	日本近代舞台美術の第一人者伊藤熹朔の作品記録として画像記録化	2002 年度
立花直美	宮下勇、赤塚祐二、竹中司(嘱)、小泉雅生(都立大学工学部建築学科助教授)、高間三郎(科学応用冷暖研究所所長)、中村勉(中村勉総合計画事務所所長)、小出俊弘(山武ビルシステム(株)環境技術センター次長)、野村泰子(竹中工務店 FM 推進本部)	キャンパスのファシリティ・マネージメントに関する研究(武蔵野美術大学のデータベース)	2002 年度～2003 年度
向井周太郎 /2003 年度 より 網戸通 夫	川島重治、小林昭世、今泉洋、長澤忠徳、橋本梁司、末廣伸行(講)、板東孝明(講)、渡邊敏之(講)、清水恒平(助)、肴倉睦子(助)、中村恵夏(助)、栗芝正臣(嘱)、阿部卓也(東京大学大学院)、高橋洋介((有)H.R.A リサーチャー) 川島重治、小林昭世、今泉洋、長澤忠徳、	<デザイン教育の資源>に関する研究-基礎デザイン学リファレンスの制作-	2002 年度～2003 年度

研究活動と研究環境

千々岩英彰	森江健二、多賀いづみ（講）、横田久美子（助）、王超鷹(上海 PAOS NET 公司出席代表)、宋璽徳(国立台湾芸術大学助教授)、崔貞伊(忠南大学講師)	東アジアにおける色彩認知と色彩感情の交叉文化的研究	2002 年度
齋藤昭嘉	篠原規行、近岡令（講）、沖知江子（助）	アール・ヌーヴォー期における造形研究	～2003 年度
今井良朗	橋本梁司、岡部あおみ、瓦井秀和（講）	地域社会と芸術活動－実態調査研究	～2002 年度
寺沢秀雄	鶴田剛司、安原七重（講）、戸崎幹夫（講）、水谷元（講）、吉橋昭夫（多摩美術大学情報デザイン学科専任講師）	インターフェースデザイン研究 1－情報機器操作におけるインタラクションのモデル化研究－	～2002 年度
高市美千佳	高藤武允、野口克洋、花光里香、P. カンダサミィ	学生の英会話能力向上の可能性を求めて、動詞から発想する英文作成法の研究－国際化の時代における美大での英語教育のあり方研究の一つとして－	～2002 年度
寺原芳彦	椎名純子、小竹信節、足立正（講）、山口泰幸（講）、中村萬里（特）、中村路子（特）、新見拓也（助）、鈴木友子（教）、羽吉久美子（教）、山口由加里（元助）	現代の価値観の変化に伴う環境対応型狭小空間<環具=HUT>の研究	2003 年度
小石新八	椎名純子、川口直次、富谷智（講）、成田真理子（助）、/2003 年度のみ大抜久敏（講）、加瀬浩嗣（講）、加納豊美（多摩美術大学助教授）、/2004 年度のみ鈴木勝（講）	舞台空間と展示空間の相互関係の研究	2003 年度～2004 年度
宮島慎吾	石垣貴子、中原俊三郎、板東孝明	ローカルデザイン研究	2003 年度
藤枝晃雄	白石美雪、松浦寿夫（講）	ブラック・マウンテン・カレッジの作家たち	2003 年度～2004 年度
玉蟲敏子	長谷川堯、沢良子（東京造形大学助教授）、林道郎（武蔵大学助教授）、松崎照明（講）	外国人が見た日本美術に関する総合的研究－ジャポニスムから 20 世紀まで－	2003 年度～2004 年度
横溝健志	後藤吉郎、白尾隆太郎、堀越洋一郎、米徳信一、井上智史（助）、小宮山博史（講）	デザインおよびその周辺技術のデジタルアーカイブス化－1	2003 年度～2004 年度
酒井道夫	長谷川堯、小林昭世、岡村多佳夫	両次大戦間における造形表現の古	2003 年度～2004 年度

研究活動と研究環境

	(東京造形大学教授)、/2004年度より沢良子(東京造形大学)	典主義の回帰傾向に関する研究	
遠藤竜太	池田良二、柳澤紀子、高島直之(講)、朱星泰(弘益大学校講師)、滝沢恭司(町田市立国際版画美術館学芸員)、ウェイン・クロザース(講)、奥山直人(助)	アジア地域における版画文化と版画教育の現状	2004年度～2006年度
小松誠	真田日呂史、磯谷慶子(講)、西川聡(講)、関根昭太郎(助)、田中啓一(教)、島田文雄(東京芸術大学美術学部工芸科教授)、井島守(佐賀県立有田窯業大学校教務部長)、外館和子(茨城県陶芸美術館副主任学芸員)、鄭寧(清華大学美術学院副教授)、李見深(景德鎮三宝陶芸研修院教授)、高振宇(中国芸術研究院陶磁芸術研究室主任)	中国における磁器の発祥から現代に至る磁器の表現の変遷と現代の世界における磁器の表現の多様性を研究(2004年に1000周年記念展が開催される景德鎮窯を調査研究)	2004年度～2005年度
小池一子	天野勝、田辺久美子、ビヴァリー・セムズ(ニューヨーク大学専任教員)、上村晴彦(助)、小西悟士(教)	衣服の概念とその表現の研究	2004年度
板東孝明	遠藤剛(山形大学工学部教授・東京工業大学名誉教授・(社)高分子学会会長)、吉田隆((株)エヌ・ティー・エス 代表取締役)、永山広樹(講・宮城工業高等専門学校助教授)、風間玲子(教)	「未来材料のデザイン表現研究」先端科学(ゲノム、ナノテク等)研究から生み出される新素材が未来社会形成の材料としての存在価値を想像させるための表現研究	2004年度
篠原規行	板屋緑、藪野健(早稲田大学教授)、宮下晃久(助)、小川明日香(助)、村田恒(助)	トニーヒルズ実験映像の抽象的カメラワークを実現するための装置研究と試作研究	2004年度～2005年度
岡部あおみ	クリストフ・シャルル、長澤忠徳、志田陽子、白石美雪	芸術文化のさまざまな領域におけるジェンダー基礎研究	2004年度～2005年度
柏木博	北澤洋子、高橋敏夫(早稲田大学文学部教授)、木下直之(東京大学大学院人文社会系研究科助教授)	テクノロジーと表現	2004年度

研究活動と研究環境

原一史	毛利伊知郎（三重県立美術館主幹（学芸員））、水上嘉久（多摩美術大学美術学部彫刻科専任講師）、竹中直（助）	「橋本平八」の生涯と彫刻観	2004年度～2005年度
黒川弘毅	伊藤誠、藤井明（小平市教育委員会 平櫛田中記念館学芸員）、田中修二（大分大学専任講師）	小平市所蔵齋藤素巖遺作研究と作品の保存・活用について	2005年度～2006年度
後藤吉郎	横溝健志、森啓（女子美術大学大学院デザイン担当教授）、山本政幸（兵庫教育大学助教授）	19世紀、W. ギャンブルがアメリカへ持ち帰った和文活版機材の実測調査とヨーロッパの和文活字製造の潮流との相関性についての研究	2005年度～2006年度
小石新八	官浪辰夫（講）・官浪商品環境研究所代表、大抜久敏（講）、鈴木英明（トッパン印刷(株)）、福田寿寛（助）、佐藤昭年（講）、松田垂紀（助）	リテールデザインの視点から見たパッケージデザインの考察	2005年度～2006年度
小池一子	天野勝、田辺久美子、ヨルク・ガイスマール（アーティスト）、上村晴彦（東京大学大学院学際情報学府修士課程）、小西悟士（助）、月岡彩（助）	「衣服の領域」展の展開およびワークショップ	2005年度
今井良朗	申明浩（講）、前沢明枝（青葉学園短期大学助教授）、笹本純（筑波大学教授）、本庄美千代（職）	絵本表現におけることばとイメージの研究	2005年度～2006年度
柏木博	北澤洋子、高橋敏夫（早稲田大学文学部教授）、木下直之（東京大学大学院人文社会系研究科教授）、長沼行太郎（関東短期大学助教授）	テクノロジーと表現	2005年度～2006年度
戸田裕介	井上雅之（多摩美術大学美術学部工芸学科助教授）、大槻孝之（日本大学芸術学部美術学科助教授）、岡本敦生（広島市立大学芸術学部芸術学科非常勤講師）、國安孝昌（筑波大学大学院助教授）、菅原二郎（大阪芸術大学芸術学部美術学科教授）、廣瀬光（講）	里山の景観と彫刻／屋外表象芸術の新たな価値形成と国際化のための実践的研究	2005年度～2006年度

研究活動と研究環境

堀越洋一郎	今泉洋、白尾隆太郎、井上智史 (助)、館松佳奈子(教)	通信教育の添削指導記録を利用したリファレンス教材の開発ー1 「レタリング」リファレンス教材の制作	2005 年度
及部克人	三浦耐子、長沢秀之、朴亨國、高橋陽一、高島直之、丸亀敏邦(武蔵野美術大学校友会副会長)	帝国美術学校の教育課程と制作活動に関する調査研究	2006 年度
下村千早	大平智弘、吉田謙二(講)、久保田晃弘(講)、草深幸司(多摩美術大学グラフィックデザイン学科教授)、川野洋(東京都立科学技術大学名誉教授・東北芸術工科大学名洋教授)、幸村真佐男(中央大学情報科学メディア科学科教授)、春口巖(尚美学園大学芸術情報学部情報表現学科助教授)、仙仁司(多摩美術大学美術館学芸員)、岩越敦彦(多摩美術大学・東京学芸大学非常勤講師)	20 世紀におけるコンピュータ・アートの誕生とその作品と思想：現代アルゴリズム・アートの先駆者・思想の研究と作品交流展	2006 年度
新正卓	山ノ下堅一(上越教育大学芸術系美術教育講座教授)、今井良朗、及部克人、山崎博、小林のりお(講)、大嶋浩(講)	静止映像における表現性の研究	2006 年度
千々岩英彰	森江健二、馮節(中国美術学院講師)、崔貞伊(韓国忠南大学講師)、白石学	日中台韓の美術大学学生の色彩感情はこの10年間にどう変わったかー1995 年度 NEDO 受託研究結果と今回(2006 年度)研究結果との比較研究ー	2006 年度

研究活動と研究環境

<資料 6> 2002 年度から 2006 年度までの科学研究費補助金に採択された研究

期間	研究分類	研究代表者	研究課題
2002 年度新規 2003 年度継続 2004 年度継続	基盤研究(C) (1)	廖 赤陽 教授	市場・社会と国家の間－福清幫ネットワークの形成と日本社会経済の変遷
2002 年度継続 2003 年度継続 2004 年度継続	基盤研究(B) (1)	源 愛日児 教授	指物（指付け技法）の変遷過程と歴史的木造架構の類型化に関する研究
2003 年度新規 2004 年度継続 2005 年度継続	基盤研究(B) (1)	玉蟲 敏子 教授	江戸時代における「書画情報」の総合的研究－『古画備考』を中心に－
2004 年度新規 2005 年度継続 2006 年度継続	基盤研究(B) (1)	朴 亨國 助教授	韓国の浮彫形態の仏教集合尊像（四仏・五大明王・四天王・八部衆）に関する総合調査
2006 年度新規	基盤研究(B)	玉蟲 敏子 教授	江戸時代における「書画情報」の総合的研究Ⅱ－『古画備考』を中心に－
2006 年度新規	基盤研究(B)	森 敏生 教授	体育科教育における目標・内容システムの構成－身体運動文化の主体形成活動の組織化－

## &lt;資料 7&gt; 2003 年度から 2006 年度までの委託研究によるプロジェクト

## 2003 年度

プロジェクト名	委託者	担当学科
[I] プロジェクト	アイリスオーヤマ(株)	基礎デザイン学科+工芸工業デザイン学科 (ID)
狭子空間 HUT-II<環具>の研究	トヨタウッドニューホーム	工芸工業デザイン学科+空間演出デザイン学科
花と緑と生活環境	森下(株)	視覚伝達デザイン学科+工芸工業デザイン学科 (ID)
[N] プロジェクト[近未来の新しいカーライフの提案]	日産自動車(株)	工芸工業デザイン学科+基礎デザイン学科
伊藤熹朔の映像空間設計の研究	日本放送協会	空間演出デザイン学科
若者、ウィスキーと出会う	サントリー(株)・(株)博報堂	視覚伝達デザイン学科

## 2004 年度

プロジェクト名	委託者	担当学科
INAX との産学合同授業「水回り空間計画」	INAX(株)	工芸工業デザイン学科 (INT)
[I] プロジェクト[そうじライフ]	アイリスオーヤマ(株)	基礎デザイン学科+工芸工業デザイン学科 (ID)
[X] プロジェクト[新しいリストタッチの提案]	カシオ計算機(株)	工芸工業デザイン学科+基礎デザイン学科+デザイン情報学科
伝統と越境—とどまる力と越えいく流れのインタラクション—	日本学術振興会	柏木博 (本学教授)
伊藤熹朔の映像空間設計の研究	日本放送協会	空間演出デザイン学科
アートサイト岩室温泉 2005	岩室温泉旅館組合+岩室村観光振興課	基礎デザイン学科
府中市彫刻のあるまちづくり事業作品管理作業委託	府中市	彫刻学科
ブロンズ胸像彫刻「松前重義先生像」保存修復作業	東海大学	彫刻学科

## 2005 年度

プロジェクト名	委託者	担当学科
「SUZUKIプロジェクト」近	スズキ(株)	工芸工業デザイン学科 (ID)



研究活動と研究環境

未来インパネデザイン		
伝統と越境—とどまる力と越え いく流れのインタラクション—	日本学術振興会	柏木博（本学教授）
次世代スモールカーの提案	(株)本田技術研究所	工芸工業デザイン学科（ID）
「森下美術館」開館 30 周年記念 事業 —美術館における総合的 デザインの試み—	財団法人森下美術館	視覚伝達デザイン学科+芸術文化 学科
「ムッチャン平和像」に関する補 修委託事業	ムッチャン平和像愛護会	彫刻学科
30 代女性の日本酒ライフ	福島県酒造組合	基礎デザイン学科
「H0」プロジェクターきもちいい グッズの開発—	(株)ほんやら堂	課外プロジェクト学生
画像データベースをモチーフと した Web インターフェース開発	(株)東芝デザインセンター	デザイン情報学科
しきりと空間	(株)INAX	工芸工業デザイン学科（INT）
ウォッシュライフ	アイリスオーヤマ(株)	基礎デザイン学科
小平市グリーンロード(齋藤素 巖)	小平市、グリーンロード	彫刻学科
世田谷区絵本プロジェクト	世田谷区、(有)プレイス	視覚伝達デザイン学科
郷土の森博物館彫刻保存	財団法人府中文化振興財 団	彫刻学科
彫刻の森美術館	府中市	彫刻学科

2006 年度

プロジェクト名	委 託 者	担 当 学 科
スモールスペースリビング、ロー シーティングの研究	IKEA	工芸工業デザイン学科（INT）
ケイタイでのインターネットサ ービス利用に関する研究	(株)Duogate	視覚伝達デザイン学科
ワンセグケイタイのデザイン研 究	三菱電機(株)	デザイン情報学科
携帯マルチ・デジタル情報ツル の提案	(株)東芝 デザインセンタ ー	工芸工業デザイン学科（ID）
伝統と越境—とどまる力と越え いく流れのインタラクション—	日本学術振興会	柏木博（本学教授）

研究活動と研究環境

彫刻の森美術館	府中市	彫刻学科
台車デザイン	(株)カナツー	基礎デザイン学科
計測器のデザイン開発	(株)レスカ	工芸工業デザイン学科 (ID)
しきりと空間	(株)INAX	工芸工業デザイン学科 (INT)
収納生活	アイリスオーヤマ(株)	基礎デザイン学科

研究活動と研究環境

<資料 8> 2002 年度から 2006 年度までの出版助成の対象者

助成年	教授名	退職年	書籍名
2002 年度	保坂陽一郎 教授 ／建築学科	2004 年 3 月定 年退職	『建築の構成－保坂陽一郎作品録』
2002 年度	向井周太郎 教授 ／基礎デザイン学科	2003 年 3 月定 年退職	『かたちの詩学』
2003 年度	青木正夫 教授 ／視覚伝達デザイン学科	2003 年 3 月定 年退職	青木正夫作品集『構造考 線が線であるために』
2003 年度	佐藤健一郎 教授 ／一般教育研究室	2003 年 3 月選 択定年退職	『日本の古典芸能』
2003 年度	田村善次郎 教授 ／芸術文化学科	2004 年 3 月定 年退職	『ネパール周遊記』
2003 年度	小久保明浩 教授 ／教職課程研究室	2004 年 3 月定 年退職	『塾の水脈』
2004 年度	網戸通夫 教授 ／基礎デザイン学科	2005 年 3 月選 択定年退職	『デザインの原景 1944-2004』
2005 年度	真田日呂史 教授 ／工芸工業デザイン学科	2006 年 3 月定 年退職	『化石デザイナーのあれこれ話』
2006 年度	藤枝晃雄 教授 ／造形文化研究室	2007 年 3 月定 年退職	『新版 ジャクソン・ポロック』
2006 年度	小谷育弘 教授 ／芸術文化学科	2008 年 3 月定 年退職予定	『パリの護美』